

(51) 国際特許分類6

C07H 19/06, 19/16, 21/00 // C12N 15/00

(11) 国際公開番号 A1

WO98/39352

(43) 国際公開日

1998年9月11日(11.09.98)

(21) 国際出願番号

PCT/JP98/00945

(22) 国際出願日

1998年3月9日(09.03.98)

(30) 優先権データ

特願平9/53409

1997年3月7日(07.03.97)

(71) 出願人;および

(72) 発明者

今西 武(IMANISHI, Takeshi)[JP/JP]

〒631-0045 奈良県奈良市千代ヶ丘2丁目2-18 Nara, (JP)

(72) 発明者:および

(75) 発明者/出願人(米国についてのみ)

小比賀聡(OBIKA, Satoshi)[JP/JP]

〒569-1022 大阪府高槻市日吉台四番町2034 Osaka, (JP)

(74) 代理人

弁理士 社本一夫,外(SHAMOTO, Ichio et al.) 〒100-0004 東京都千代田区大手町二丁目2番1号 新大手町ビル206区 湯浅法律特許事務所 Tokyo,(JP) (81) 指定国 AL, AM, AU, AZ, BA, BB, BG, BR, BY, CA, CN, CU, CZ, EE, GE, GH, GM, GW, HU, ID, IL, IS, KE, KG, KR, KZ, LC, LK, LR, LS, LT, LV, MD, MG, MK, MN, MW, MX, NO, NZ, PL, RO, RU, SD, SG, SI, SK, SL, TJ, TM, TR, TT, UA, UG, US, UZ, VN, YU, ZW, ARIPO特許 (GH, GM, KE, LS, MW, SD, SZ, UG, ZW), ユーラシア特許 (AM, AZ, BY, KG, KZ, MD, RU, TJ, TM), 欧州特許 (AT, BE, CH, DE, DK, ES, FI, FR, GB, GR, IE, IT, LU, MC, NL, PT, SE), OAPI特許 (BF, BJ, CF, CG, CI, CM, GA, GN, ML, MR, NE, SN, TD, TG).

添付公開書類

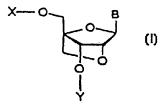
国際調査報告書

(54)Title: NOVEL BICYCLONUCLEOSIDE AND OLIGONUCLEOTIDE ANALOGUES

(54)発明の名称 新規ビシクロヌクレオシド及びオリゴヌクレオチド類縁体

(57) Abstract

Oligo- or polynucleotide analogues each having one or two structures represented by general formula (I) wherein B represents pyrimidine or purine nucleic acid base or analogue thereof. They can provide antisense molecules of oligonucleotide analogues that are less likely to undergo enzymatic hydrolysis in vivo, have a high capability of binding to sense chains, and can be easily synthesized.







INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.
PCT/JP98/00943

A. CLASSIFICATION OF SUBJECT MATTER Int.Cl ⁶ C07H19/06, C07H19/16, C07H21/00 // C12N15/00			
According to International Patent Classification (IPC) or to both national classification and IPC B. FIELDS SEARCHED			
Minimum documentation searched (classification system followed by classification symbols)			
Int.Cl ⁶ C07H19/06, C07H19/16, C07H21/00, C12N15/00			
Documentation searched other than minimum documentation to the extent that such documents are included in the fields searched			
Electronic data base consulted during the international search (name of data base and, where practicable, search terms used)			
WPI (DIALOG), BIOSIS (DIALOG), CA (STN), REGISTRY (STN)			
C. DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT			
Category*	Citation of document, with indication, where ap	propriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
Р, Х	OBIKA S. et al., "Synthesis of 2'-0,4'-C-Methyleneuridine an d-cytidine. Novel Bicyclic Nucleosides Having a Fixed C ₃ ,-en do Sugar Puckering", Tetrahedron Letters, Vol. 38, No. 50 (15 December 1997) p.8735-8738		1-5
А	ALTMANN K. H. et al., "6'-Carbon-Substituted Carbocyclic Analogs of 2'-Deoxyribonucleosides Synthesis and Effect on DNA/RNA Duplex Stability" Tetrahedron, Vol. 52, No. 39 (1996) p.12699-12722		1-5
A	OBIKA S. et al., "Properties of Novel Oligonucleotide Analogues Containing an Acyclic Nucleoside and a Carbamate Linkage" Bioorganic & Medicinal Chemistry Letters, Vol. 6, No. 12, (1996) p.1357-1360		15
		·	·
Further documents are listed in the continuation of Box C. See patent family annex.			
* Special categories of cited documents: "A" document defining the general state of the art which is not considered to be of particular relevance "E" earlier document but published on or after the international filing date "X" document which may throw doubts on priority claim(s) or which is cited to establish the publication date of another citation or other special reason (as specified) "O" document referring to an oral disclosure, use, exhibition or other means document published prior to the international filing date but later than the priority date claimed "&"		date and not in conflict with the application but cited to understand the principle or theory underlying the invention document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered novel or cannot be considered to involve an inventive step when the document is taken alone document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered to involve an inventive step when the document is combined with one or more other such documents, such combination being obvious to a person skilled in the art document member of the same patent family	
Date of the actual completion of the international search May 25, 1998 (25. 05. 98) Date of mailing of the international search report June 2, 1998 (02. 06. 98)			
Name and mailing address of the ISA/ Japanese Patent Office		Authorized officer	
Facsimile No.		Telephone No.	

世界知的所有権機関 際 事 務 局 特許協力条約に基づいて公開された国際出願





(51) 国際特許分類6

C07H 19/06, 19/16, 21/00 // C12N 15/00

(11) 国際公開番号

WO98/39352

(43) 国際公開日

1998年9月11日(11.09.98)

(21) 国際出願番号

PCT/JP98/00945

A1

(22) 国際出願日

1998年3月9日(09.03.98)

(30) 優先権データ

特願平9/53409

1997年3月7日(07.03.97)

(71) 出願人;および

(72) 発明者

今西 武(IMANISHI, Takeshi)[JP/JP]

〒631-0045 奈良県奈良市千代ヶ丘2丁目2-18 Nara, (JP)

(72) 発明者;および

(75) 発明者/出願人(米国についてのみ)

小比賀聡(OBIKA, Satoshi)[JP/JP]

〒569-1022 大阪府高槻市日吉台四番町2034 Osaka, (JP)

(74) 代理人

弁理士 社本一夫,外(SHAMOTO, Ichio et al.) 〒100-0004 東京都千代田区大手町二丁目2番1号

新大手町ビル206区 湯浅法律特許事務所 Tokyo, (JP)

(81) 指定国 AL, AM, AU, AZ, BA, BB, BG, BR, BY, CA, CN, CU, CZ, EE, GE, GH, GM, GW, HU, ID, IL, IS, KE, KG, KR, KZ, LC, LK, LR, LS, LT, LV, MD, MG, MK, MN, MW, MX, NO, NZ, PL, RO, RU, SD, SG, SI, SK, SL, TJ, TM, TR, TT, UA, UG, US, UZ, VN, YU, ZW, ARIPO特許 (GH, GM, KE, LS, MW, SD, SZ, UG, ZW), ユーラシア特許 (AM, AZ, BY, KG, KZ, MD, RU, TJ. TM), 欧州特許 (AT, BE, CH, DE, DK, ES, FI, FR, GB, GR, IE, IT, LU, MC, NL, PT, SE), OAPI特許 (BF, BJ, CF, CG, CI, CM, GA, GN, ML, MR, NE, SN, TD, TG).

添付公開書類

国際調査報告書

NOVEL BICYCLONUCLEOSIDE AND OLIGONUCLEOTIDE ANALOGUES (54)Title:

新規ビシクロヌクレオシド及びオリゴヌクレオチド類縁体 (54)発明の名称

(57) Abstract

Oligo- or polynucleotide analogues each having one or two structures represented by general formula (I) wherein B represents pyrimidine or purine nucleic acid base or analogue thereof. They can provide antisense molecules of oligonucleotide analogues that are less likely to undergo enzymatic hydrolysis in vivo, have a high capability of binding to sense chains, and can be easily synthesized.

一般式:

[式中、Bはピリミジンもしくはプリン核酸塩基又はそれらの類縁体である] で表される構造を1または2以上有するオリゴまたはポリヌクレオチド類縁体が 開示されている。この類縁体の使用により、生体内で酵素の加水分解を受けにくく、センス鎖との結合能が高く、しかも合成が容易であるオリゴヌクレオチド類 縁体アンチセンス分子が提供される。

PCTに基づいて公開される国際出願のパンフレット第一頁に掲載されたPCT加盟国を同定するために使用されるコード (参考情報)

AAAAABBBBBBBBBBBCCCCCCCCCCDDEE

LMTUZABEFGJRYAFGHIMNUYZEKES

LMTUZABBBBBBBBBBCCCCCCCCCCDDEE

LMTUZABBBBBBBBBBCCCCCCCCCCDDEE

明細書

新規ビシクロヌクレオシド及びオリゴヌクレオチド類縁体

[技術分野]

本発明は新規なヌクレオシド類縁体とヌクレオチド類縁体に関し、更に詳細に はアンチセンス分子に適したヌクレオチド類縁体に関するものである。

[背景技術]

10

1978年にアンチセンス分子がインフルエンザウィルスの感染を阻害したとの報告が初めて成された。以後、ガン遺伝子発現やAIDS感染を阻害したとの報告もなされている。アンチセンスオリゴヌクレオチドが望ましくない遺伝子の発現を特異的に制御することから、医薬品として近年、最も期待されている分野の一つである。

アンチセンス法とは、DNA→RNA→タンパク質という、いわゆるセントラルドグマの一連の流れをアンチセンスオリゴヌクレオチドを用いて制御しようという概念に基づいている。

- しかしながら、天然型オリゴヌクレオチドをアンチセンス分子としてこの方法に適用した場合、生体内の各種ヌクレアーゼにより分解を受けたり、細胞膜透過性が高くないなどの問題が生じた。そのため、様々な核酸誘導体や類縁体が数多く合成され、研究が重ねられてきた。例えば、リン原子上の酸素原子をイオウ原子に置換したホスホロチオエート、メチル基に置換したメチルホスホネート、また最近になっては、リン原子も炭素原子で置換したもの、さらには糖部の構造を変換したもの、核酸塩基を修飾したものなども合成されている。しかし、いずれの場合も、生体内での安定性、合成の容易さ、配列特異性(特定の遺伝子発現のみを選択的に制御する)などの点で十分に満足のいく誘導体や類縁体が得られていないのが現状である。
- 25 生体内でヌクレアーゼによる分解を受けにくく、高い親和力で標的のメッセン ジャーRNAに結合し、その特異性に優れ、よって特定の遺伝子の発現を効率よ く制御することのできるアンチセンス用の分子の創製が望まれている。

「発明の開示]

本発明の発明者らは、アンチセンス法において有用と考えられる、核酸における糖部のコンホメーションの固定化を施したした核酸類縁体を設計し、その単位構造となるヌクレオシド類縁体の合成を行い、これを用いて調製したオリゴヌクレオチド類縁体にアンチセンス分子として極めて有用であることを確認した。

[図面の簡単な説明]

5

15

20

第1図は、天然型のオリゴヌクレオチドをエキソヌクレアーゼで分解した時の 紫外部吸収(260nm)の経時変化を示すチャートである。

第2図は、本発明のオリゴヌクレオチド(X2)をエキソヌクレアーゼで分解 した時の紫外部吸収(260nm)の経時的変化を示すチャートである。

10 以下に本発明の詳細を説明する。

本発明のヌクレオシド類縁体の構造は下記の一般式(I)で表すことができる。

[式中、Bはピリミジンもしくはプリン核酸塩基又はそれらの類縁体であり、 X及びYは同一もしくは異なり、水素、アルキル基、アルケニル基、アルキニル 基、シクロアルキル基、アラルキル基、アリール基、アシル基、又はシリル基で ある]で表わされるヌクレオシド類縁体もしくはそれらのアミダイト誘導体であ る。

アルキル基とは炭素数1-20の直鎖または分枝鎖状のアルキル基を示し、例えば、メチル基、エチル基、n-プロピル基、i-プロピル基、n-ブチル基、t-ブチル基、ペンチル基、ヘキシル基、ヘプチル基、オクチル基、ノニル基、デシル基等があげられる。

WO⁻98/39352 PCT/JP98/00945

アルケニル基とは、炭素数2-20の直鎖または分枝鎖状のアルケニル基を示し、例えば、ビニル基、アリル基、ブテニル基、ペンテニル基、ゲラニル基、ファルネシル基等があげられる。

アルキニル基とは、炭素数2-20の直鎖または分枝鎖状のアルキニル基を示し、例えば、エチニル基、プロピニル基、ブチニル基等があげられる。

5

10

15

シクロアルキル基とは、炭素数3-8のシクロアルキル基を示し、例えば、シクロプロピル基、シクロブチル基、シクロペンチル基、シクロヘキシル基、シクロヘプチル基、シクロオクチル基等があげられる。シクロアルキル基の環上の1つ以上の任意のメチレンが酸素原子や硫黄原子あるいはアルキル基で置換された窒素原子に置換された複素環基も含まれ、例えばテトラヒドロピラニル基などがあげられる。

アリール基とは、芳香族複素環基又は芳香族炭化水素基、から水素原子1個を除いた1価の置換基を意味し、好ましくは、芳香族炭化水素基から水素原子1個を除いた1価の置換基を意味し、例えば、フェニル基、トリル基、キシリル基、ビフェニル基、ナフチル基、アントリル基、フェナントリル基等である。また、アリール基の環上の炭素原子はハロゲン原子、低級アルキル基、水酸基、アルコキシ基、アミノ基、ニトロ基、トリフルオロメチル基等の1種以上の基によって置換されていてもよい。置換基としてはハロゲン原子、水酸基、アミノ基、アルコキシ基、アリールオキシ基等があげられる。

20 アラルキル基とは、アリール基にアルキル基が結合した基で、アラルキル基は 置換されていてもよい。置換されていてもよいアラルキル基とはアリール基にア ルキル基が結合した基で、アリール基及びアルキル基の任意の1つ以上の水素原 子が以下の置換基で置換されていてもよい基を意味する。 ここで置換基として は、アシル基、アミノ基、アリール基、アルキル基、シクロアルキル基、アルコ キシ基、水酸基、ニトロ基、ハロゲン原子等がある。

アミノ基は置換されていてもいなくてもよいが、置換されているアミノ基の例 としてはアルキルアミノ基、アリールアミノ基、アシルアミノ基等がある。アル コキシ基の例としては、メトキシ基、エトキシ基、n-プロポキシ基、i-プロ

3

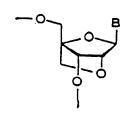
ポキシ基、n-ブトキシ基、i-ブトキシ基、s-ブトキシ基、t-ブトキシ基、 ペンチルオキシ基、ヘキシルオキシ基、フェノキシ基等がある。ハロゲン原子と してはフッ素、塩素、臭素、ヨウ素がある。

アラルキル基の好ましい例としては、例えばトリチル基、ベンジル基、フェネチル基、トリチルメチル基、ジフェニルメチル基、ナフチルメチル基、4,4'-ジメトキシトリチル(DMTr)基等があるが、特に好ましいのはDMTr基である。

アシル基としては、アセチル基、ホルミル基、プロピオニル基、ベンゾイル基、ベンジルオキシカルボニル基等があげられる。シリル基の例としては、トリアルキルシリル基があげられるが、好ましくは、トリメチルシリル基、トリエチルシリル基、トリイソプロピルシリル基、tーブチルジメチルシリル基、tーブチルジフェニルシリル基等があげられ、更に好ましくはトリメチルシリル基である。

また、本発明のヌクレオチド類縁体は、一般式 (Ia)

10



(la)

[式中、Bはピリミジンもしくはプリン核酸塩基又はそれらの類縁体である]で 表される構造を1または2以上有するオリゴヌクレオチドまたはポリヌクレオチ ド類縁体、または、 一般式 (II) WO⁻98/39352 PCT/JP98/00945

[式中、 B^1 、Bは同一または異なり、ピリミジンもしくはプリン核酸塩基又はそれらの類縁体であり、Rは水素、水酸基、ハロゲン、またはアルコキシ基であり、 W^1 、 W^2 は同一または異なり、水素、アルキル基、アルケニル基、アルキニル基、シクロアルキル基、アラルキル基、アリール基、アシル基、シリル基またはリン酸残基もしくはリン酸ジエステル結合を介した天然型ヌクレオシド、合成ヌクレオシドまたはこれらヌクレオシドを含むオリゴヌクレオチドもしくはポリヌクレオチドであり、 n^1 または n^2 は同一または異なり、 $0\sim50$ の整数である(ただし、 n^1 または n^2 が同時にゼロになることはない。また、 n^2 の全てが同時にゼロになることはない。か、 n^3 は $1\sim50$ の整数である、ただし、 n^1 および/または n^2 が2以上の場合には n^2 と n^3 と n^4 と n^4 日になることはポリヌクレオチド類縁体である。

5

10

本発明における、ピリミジンもしくはプリン核酸塩基とは、チミン、ウラシル、 シトシン、アデニン、グアニン及びそれらの誘導体である。

本発明のヌクレオシド類縁体及びヌクレオチド類縁体は次のように合成できる。(1)ヌクレオシド類縁体の合成

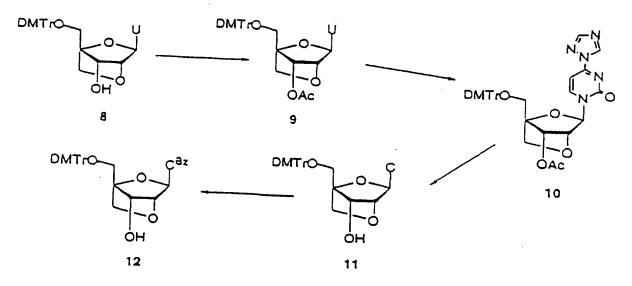
WO⁻98/39352 PCT/JP98/00945

ウリジンから文献 [1) J. A. Secrist et al., J. Am. Chem. Soc., 101, 155 4 (1979); 2) G. H. Jones et al., J. Org. Chem., 44, 1309 (1979)] に従い合成した化合物 1 をトシルクロリド (T s C 1) で 2 個ある第一級アルコールの一方のみをトシル化して化合物 2 に導き、酸加水分解してトリオール体 3 とした。化合物 3 はベンズアルデヒドと酸触媒下で縮合反応を行いベンジリデン化合物 4 として、このものを四塩化チタン (T i C 1 4) 存在下にナトリウムシアノボロヒドリド (N a B H 3 C N) で還元すると化合物 5 が得られた。本化合物をテトラヒドロフラン (T H F) 中でナトリウムへキサメチルジシラジド (N a H M D

5

5

ウリジン以外の天然・非天然を問わず様々な核酸塩基を有する化合物(I)は 3通りの方法で合成することができる。



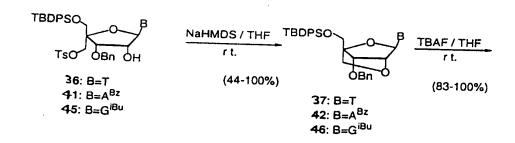
第二の方法はD-リボースから文献 [3) A. G. M. Barrett et al., J. Org. Ch em., 55, 3853(1990); 4) G. H. Jones et al., ibid., 44, 1309 (1979)] に従って容易に得られる化合物 1 3 を経由する方法である。すなわち、化合物 1 3 を 3 工程で化合物 1 6 に導き、塩基性条件下に閉環反応すると、目的のメチルグリコ

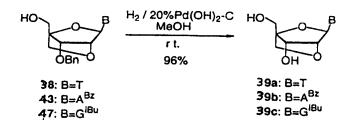
シル化合物 17 が得られた。本化合物の 1位 OM e 基を天然の様々な核酸塩基や 非天然の核酸塩基類縁体に置換するには、既に開発された種々の方法により可能 である。例えば、下式化合物 17 から化合物 20 のような方法が使用できる。

さらに、第三の方法としては、D-グルコースから1工程で得られ、しかも市販品であるジアセトン D-グルコースを出発原料とする方法である。文献 5) R. D. Youssefyeh, J. P. H. Verheyden and J. G. Moffatt., J. Org. Chem., 44, 1301-1309 (1979) に従って化合物 3 1 を調製する。次いで、化合物 3 1 を下記の式に示した通り、2 種の1 級水酸基を t-ブチルジフェニルシリル基、p-トルエンスルホニル基で段階的に保護し、アセチル化処理して化合物 3 4 に導いた。

5

化合物34にトリメチルシリル化して活性化したチミン (2TMS・T)、ベンゾイルアデニン (2TMS・A^{B*})、イソブチリルグアニン (3TMS・G^{+B*})を別々に縮合させ、下記の式に示すように、化合物5、10、14をそれぞれ高収率で得た。ついで、これら縮合体は脱アセチル化(化合物36、41、45)、5員環形成(化合物37、42、46)、脱シリル化(化合物38、43、47)、更に脱ベンジル化して目的の化合物39へと誘導した。





(2) オリゴヌクレオチド類縁体の合成

5

10

15

化合物8に2ーシアノエエチルーN, N, N', N'ーテトライソプロピルホスホロアミダイトを作用させ、アミダイト体21を得、このものと天然ヌクレオシドアミダイト体とを組み合わせて、DNA自動合成機を用いて種々のオリゴヌクレオチド類縁体を合成する。合成した粗生成物はオリゴパック、逆相クロマトカラムを用いて精製し、精製物の純度をHPLCで分析することにより確認する。

化合物8のモノマーユニットは、オリゴヌクレオチド類縁体の中に1つ以上存在させることができる。また、オリゴヌクレオチド類縁体の中の2ケ所以上の位置に、1または2以上の天然ヌクレオチドを介して隔離された状態で存在させても良い。本発明に依れば、本発明のヌクレオチド類縁体(ヌクレオシド類縁体)を必要な位置に必要な数(長さ)で導入したアンチセンス分子を合成することができる。オリゴヌクレオチド類縁体全体の長さとしてヌクレオシド単位が2~50、好ましくは10~30個である。

このようなオリゴヌクレオチド類縁体(アンチセンス分子)は、各種ヌクレアーゼに対して分解されにくく、生体への投与後、長時間生体内に存在することができる。そして、例えば、メッセンジャーRNAと安定な二重鎖を形成して病因となるタンパク質の生合成を阻害したり、ゲノム中の二重鎖DNAとの間で三重鎖を形成して、メッセンジャーRNAへの転写を阻害する。また、感染したウイルスの増殖を抑えることも可能となる。

これらのことから、本発明のヌクレオシド類縁体を用いたオリゴヌクレオチド類縁体(アンチセンス分子)は、抗腫瘍剤、抗ウイルス剤をはじめとした、特定遺伝子の働きを阻害して疾病を治療する医薬品としての有用性が期待される。

本発明のヌクレオチド(ヌクレオチド)類縁体を用いたアンチセンス分子は、例 えば、緩衝剤および/または安定剤等の慣用の助剤を配合して非経口投与製剤と したり、リポソーム製剤とすることができる。また、局所用の製剤としては、慣 用の医薬用担体を配合して軟膏、クリーム、液剤、または膏薬等に調剤できる。

本発明のヌクレオシド類縁体ならびにヌクレオチド類縁体の合成を実施例および製造例により、さらに詳しく説明する。実施例では、塩基としてウラシルを主として使用しているが、他のプリン核酸塩基も同様に使用できる。

[実施例1] ヌクレオシド類縁体の合成

5

10

15

20

(1) 2', 3'-O-シクロヘキシリデン-4'-(p-トルエンスルホニルオキシメチル) ウリジン(2)の合成

窒素気流下、文献既知化合物 1 (956 mg, 2.70 mmo1) の無水ピリジン溶液 (13.5 ml) に室温でp -トルエンスルホニルクロリド (771 mg, 4.05 mmo1)を加え、60 ℃で5時間撹拌した。

反応溶液に飽和重曹水を加えた後、ベンゼンで3回抽出した。有機層を飽和食塩水で1回洗浄後、無水 $MgSO_4$ にて乾燥した。溶媒を減圧留去し、ベンゼンで3回共沸し、得られた粗成績体をシリカゲルカラムクロマトグラフィー (CHCl₃: MeOH = 15:1) により精製後、ベンゼンーへキサンにて再沈澱し、白色粉末として化合物 2 (808 mg, 1.59 mmol, 59%) を得た。

化合物 2:白色粉末 mp 104-106 $^{\circ}$ C (ベンゼンーへキサン). IR $_{\nu}$ (KBr): 33 26, 2929, 2850, 1628, 1577, 1544, 1437, 1311, 1244 cm $^{-1}$. 1 H-NMR (d $_{6}$ -acet one): δ 1. 45-1. 67 (10H, m), 2. 45 (3H, s), 3. 71 (2H, ABq, J = 12 Hz), 4. 20 (2H, ABq, J = 11 Hz), 4. 92 (1H, d, J' = 6 Hz), 5. 05, 5. 06 (1H, dd, J = 4, 6 Hz), 5. 60 (1H, d, J = 7 Hz), 5. 75 (1H, d, J = 4 Hz), 7. 48 (2H, d, J = 8 Hz), 7. 77 (1H, d, J = 8 Hz), 7. 81 (2H, d, J = 8 Hz), 10. 10 (1H, s,). 13 C-NMR (d $_{6}$ -acetone): δ 21. 5, 24. 1, 24. 5, 25. 5, 34. 8, 36. 9,

63. 5. 69. 7. 82. 5. 84. 7. 87. 8. 92. 9. 102. 9. 115. 4. 128. 8. 130. 8. 133. 9. 1 42. 7. 145. 9. 151. 3. 163. 5. Mass(EI): m/z 481(M+- H₂0).

Anal. Calcd for $C_{23}H_{28}N_2O_9S \cdot 1/3$ H_2O : C, 53.69; H, 5.61; N, 5.44; S, 6. 22. Found: C, 53.99; H, 5.48: N, 5.42: S, 6.10.

- 5 (2) 4'-(p-トルエンスルホニルオキシメチル)ウリジン(3)の合成 化合物2(107 mg, 0.21 mmol)をTFA-H₂O(98:2, 1 ml)中室温で10分間撹拌した。反応溶液を減圧留去し、EtOHを加えて3回共沸した。得られた粗成 額体をシリカゲルカラムクロマトグラフィー(CHCl₃:MeOH = 10:1)により精製し、 化合物3(85.0 mg, 0.20 mmol, 94%)を得た。
- 化合物 3:白色粉末 mp 119-120 °C. IR ν (KBr): 3227, 3060, 2932, 2837, 1709, 1508, 1464, 1252, 978, 835, 763, 556 cm⁻¹. ¹H-NMR (d₆-acetone): δ 2.31 (3H, s), 2.84 (3H, s), 3.71 (2H, s), 4.13, 4.20 (2H, ABq, J = 11 Hz), 4.28, 4.31 (1H, dd, J' = 9, 6 Hz), 4.36 (1H, d, J' = 6 Hz), 5.54 (1 H, d, J' = 8 Hz), 5.75 (1H, d, J = 7 Hz), 7.32 (2H, d, J = 8 Hz), 7.67 (2H, d, J = 8 Hz), 7.70 (1H, d, J' = 8 Hz), 10.14 (1H, s). ¹³C-NMR (d₆-acetone): δ 21.5, 63.7, 70.8, 72.7, 74.6, 86.8, 88.8, 103.1, 128.8, 130. 7, 133.9, 141.7, 145.8, 151.8, 163.9. Mass (EI): m/z 256 (M+- OTs).
 - (3) 2', 3'-O-ベンジリデンー4'-(p-トルエンスルホニルオキシメチル) ウリジン(4)の合成
- 20 窒素気流下、化合物 3 (400 mg, 0.93 mmol) にベンズアルデヒド (2.4 ml, excess)、塩化亜鉛 (670 mg, 5.0 mmol)を加え室温にて 5 時間撹拌した。反応を飽和重曹水により止め、クロロホルムで抽出し、飽和重曹水、水、飽和食塩水で洗浄した。有機層を無水硫酸ナトリウムで乾燥し、溶媒留去後シリカゲルカラムクロマトグラフィー(CHCl₃: MeOH = 40:1) により精製し、化合物 4 (380 mg, 0.74 mmol, 80%)を得た。
 - 化合物 4: 白色粉末. mp 99-102 °C (CH₂Cl₂-ヘキサン). [α]_D ²³-26.7 ° (c = 1.0, CHCl₃). IR ν (KBr): 3059, 1691, 1460, 1362, 1269, 1218, 1177 cm⁻¹. ¹H-NMR (CDCl₃) δ : 2.41 (3H, s), 3.25 (1H, br), 3.79 (2H, m), 4.19

(2H, s), 5.09 (1H, d, J = 7 Hz), 5.28 (1H, dd, J = 3, 7 Hz), 5.60 (1H, d, J = 4 Hz), 5.73 (1H, d, J = 8 Hz), 5.94 (1H, s), 7.24 (1H, d, J = 8 Hz), 7.38 (2H, d, J = 9 Hz), 7.42 (5H, br), 7.69 (2H, d, J = 9 Hz), 9.11 (1H, br). $^{1.3}$ C-NMR (CDCl₃): δ 21.6, 63.5, 68.3, 77.2, 82.8, 84.2, 87.7, 94.9, 102.6, 107.5, 126.5, 127.9, 128.5. 129.7, 132.2, 135.0, 143.0, 145.0, 150.4, 163.5.

Anal. Calcd for $C_{24}H_{24}N_{2}O_{9}S \cdot 1/3$ $H_{2}O$: C, 55.17; H, 4.76; N, 5.36; S, 6. 14. Found: C, 55.19; H, 4.66; N, 5.29; S, 5.98.

(4) 3'-O-ベンジル-4'-(p-トルエンスルホニルオキシメチル)ウリジン(5)の合成

5

10

15

窒素気流下、化合物 4 (150 mg, 0.29 mmo1)のアセトニトリル溶液 (3 m1)にシアノ水素化ホウ素ナトリウム (92 mg, 1.5 mmo1)を室温にて加えた。その後、四塩化チタン (0.16 ml, 1.5 mmo1)を氷冷下で滴下し室温にて15 時間撹拌した。反応液をクロロホルムに希釈して飽和重曹水、水、飽和食塩水で洗浄したのち有機層を無水硫酸ナトリウムで乾燥し、溶媒留去後シリカゲルカラムクロマトグラフィー(CHC13: MeOH = 25:1)により精製し、化合物 5 (112 mg, 0.22 mmo1, 75%)を得た。

Anal. Calcd for $C_{24}H_{26}N_{2}O_{9}S$: C, 55.59; H, 5.05; N, 5.40; S, 6.18. Found: C, 55.41; H, 5.02; N, 5.32; S, 6.15.

(5) 3'-O-ベンジル-2'-O, 4'-C-メチレンウリジン(6)の合成 窒素気流下、化合物5(80 mg, 0.16 mmol)の無水THF溶液(1.5 ml)に室 温で NaHMDS(3.2 mmol)の無水ベンゼン懸濁液(0.7 ml)を加え、室温で20 時間撹拌した。反応溶液に飽和重曹水を加え、CHCl3にて抽出した。有機層を飽和食塩水で洗浄した後、無水硫酸ナトリウムにて乾燥した。溶媒を減圧留去し、得られた粗成績体をシリカゲルカラムクロマトグラフィー(CHCl3: MeOH = 10:1)にて精製後、MeOHにて再結晶し、化合物6(41 mg, 0.10 mmol, 61%)を得た。 化合物6:無色結晶。mp 217-219 ℃(MeOH)、[α]_D ²³+108.4 °(c = 0.3, MeOH)、IR ν (KBr): 3059、2951、1688、1459、1271、1053 cm⁻¹、¹H-NMR(d₆-D MSO) δ: 3.75、3.85(2H, AB, J = 8 Hz)、3.77(2H, d, J = 5 Hz)、3.92(1H, s)、4.44(1H, s)、4.60(2H, s)、5.39(1H, t, J = 5 Hz)、5.48(1H, s)、7.

- s), 4. 44 (1H, s), 4. 60 (2H, s), 5. 39 (1H, t, J = 5 Hz), 5. 48 (1H, s), 7. 31 (5H, m), 7. 72 (1H, d, J = 8 Hz), 11. 37 (1H, s). $^{1.3}$ C-NMR (d₆-DMSO): δ 56. 0, 71. 1, 71. 6, 75. 8, 76. 5, 86. 5, 88. 3, 100. 9, 127. 4, 127. 6, 128. 2, 1 37. 9, 139. 0, 150. 0, 163. 3. Mass(EI): m/z 346 (M+, 1. 1).
- 15 Anal. Calcd. for $C_{17}H_{18}N_2O_6$: C, 58.96; H, 5.24; N, 8.09. Found: C, 58.67; H, 5.23; N, 8.05.

10

20

25

(6) 2'-O, 4'-C-メチレンウリジン <math>(7) の合成

化合物 6 (25 mg, 0.072 mmo1)のメタノール溶液 (2.5 m1)に10% Pd-C (25 mg)を加え、水素気流下、常圧にて15 時間撹拌した。反応液を濾過し、溶媒留去後、シリカゲルカラムクロマトグラフィー (CHC1 $_3$: MeOH = 10:1 then 5:1) にて精製し、7 (18.3 mg, quant.)を得た。

化合物 7: 無色結晶. mp 239-243 °C (MeOH). [α]₀ ²³+92.2 ° (c = 0.3, Me OH). IR ν (KBr): 3331, 3091, 3059, 2961, 1689, 1463, 1272, 1049 cm⁻¹. ¹H-NMR (CD₃OD) δ : 3.76, 3.96 (2H, AB, J = 8 Hz), 3.90 (2H, s), 4.04 (1H, s), 4.28 (1H, s), 5.55 (1H, s), 5.69 (1H, d, J = 8 Hz).

Anal. Calcd. for $C_{10}H_{12}N_{2}O_{6}$: C, 46.88; H, 4.72; N, 10.93. Found: C, 46.74; H, 4.70; N, 10.84.

(7) 5'-O-(4,4'-ジメトキシトリチル)-2'-O,4'-C-メチレン ウリジン(8)の合成

化合物 7 (140 mg, 0.53 mmo1) に無水ピリジンを加えて3回共沸した後、無水ピリジン溶液 (1.5 ml) とし、窒素気流下、室温で4,4'ージメトキシトリチルクロリド (210 mg, 0.63 mmo1)、DMAP (6.5 mg, 0.053 mmo1)を加え室温で5時間撹拌した。反応溶液に飽和重曹水を加えた後、CH₂Cl₂ で抽出した。有機層を水、飽和食塩水で洗浄後、無水硫酸ナトリウムにて乾燥した。溶媒を減圧留去し、得られた粗成績体をシリカゲルカラムクロマトグラフィー(CHCl₃: MeOH = 40:1)により精製し、化合物 8 (230 mg, 0.34 mmo1, 66%)を得た。

5

化合物 8: 白色粉末. mp 117-120 °C (CHCl₃). [α]_D ²³+17.2° (c = 1.0, CHCl₃). IR ν (KBr): 3393, 3101, 2885, 1689, 1464, 1272, 1047 cm-1.1H-N MR (CDCl₃) δ: 2.59 (1H, br), 3.56 (2H, q, J = 7, 11 Hz), 3.87 (1H, d, J = 7 Hz), 4.26 (1H, s), 4.47 (1H, s), 5.60 (1H, d, J = 9 Hz), 5.63 (1H, s), 5.84 (4H, d, J = 9 Hz), 7.22-7.45 (9H, m), 7.93 (1H, d, J = 9 Hz). [実施例 2] ヌクレオシド類縁体の合成

(1) メチル= $5-O-(t-プチルジフェニルシリル)-4-ヒドロキシメチル-2, 3-O-イソプロピリデン-<math>\beta-D-$ リボフラノシド (14) の合成

窒素気流下、文献既知化合物 1 3 (2.00g, 8.54mmo1)の無水 C H₂C l₂溶液(40 m1)に氷冷下でEt₃N(2.62m1, 18.8mmo1)、t ーブチルジフェニルシリルクロリド(4.88m1, 18.8mmo1)を加え、室温で 1 3 時間撹拌した。反応溶液に飽和重曹水を加えた後、AcOEtで 3 回抽出した。有機層を飽和食塩水で 1 回洗浄後、無水Na₂SO₄にて乾燥した。溶媒を減圧留去し、得られた粗成績体をシリカゲルカラムクロマトグラフィー(ヘキサン:AcOEt=5:1)により精製し、無色油状物質 1 4 (2.82g, 5.9 8mmo1, 70%)を得た。

[α]_D¹⁷-16.2° (c=0.52, CHCl₃) IR ν (KBr):3510, 3061, 2938, 2852, 1465, 110 3cm⁻¹.

 1 H-NMR (CDC1₃) δ : 1.09(9H, s), 1.28(3H, s), 1.49(3H, s), 3.22(3H,

s), 3. 67, 3. 76(2H, AB, J=11Hz), 3. 88, 3. 93(2H, AB, J=11Hz), 4. 49(1H, d, J=6Hz), 4. 57(1H, d, J=6Hz), 4. 93(1H, s), 7. 38-7. 43(6H, m), 7. 67(4H, d, J=7Hz).

1 3 C - NMR (CDC 1 3) δ ε: 19. 2, 24. 4, 25. 9, 26. 9, 55. 0, 62. 9, 64. 8, 82. 2, 85. 9, 88. 7, 108. 6, 112. 6, 127. 8, 129. 9, 133. 0, 135. 7.

- 5 Anal. Calcd for $C_{26}H_{36}O_6Si \cdot 1/4 H_2O$: C, 65. 45; H, 7. 71. Found: C, 65. 43; H, 7. 59.
 - (2) メチル=5-0-(t-ブチルジフェニルシリル) -2, 3-0-イソプロピリデン-4-(p-トルエンスルホニルオキシメチル) - β -リボフラノシド(15) の合成
- 2素気流下、化合物(2.13g, 4.51mmol)の無水CH₂Cl₂溶液(15ml)に室温でEt₃N (3.92g, 28.0mmol)、pートルエンスルホニルクロリド(1.34g, 7.22mmol)、4ージメチルアミノピリジン(90mg, 0.72mmol)を加え、室温で17時間撹拌した。反応溶液に飽和重曹水を加えた後、AcOEtで3回抽出した。有機層を飽和食塩水で1回洗浄後、無水Na₂SO₄にて乾燥した。溶媒を減圧留去し、得られた粗成績体をシリカゲルカラムクロマトグラフィー(ヘキサン:AcOEt=10:1)により精製し、無色油状物質15(2.76g, 4.42mmol, 98%)を得た。

[α]_D17-3.82° (c=0.56, CHCl₃) IR ν (KBr):2934, 2852, 1369, 1104cm⁻¹. ¹H-NMR (CDCl₃) δ :1.02(9H, s), 1.20(3H, s), 1.32(3H, s), 2.41(3H, s), 3.09(3H, s), 3.51, 3.77(2H, AB, J=10Hz), 4.34(1H, d, J=6Hz), 4.25, 4.39(2H,

- 20 AB, J=9Hz), 4. 47(1H, d, J=6Hz), 4. 77(1H, s), 7. 28, 7. 81(4H, AB, J=9Hz), 7. 39-7. 44(6H, m), 7. 62-7. 65(4H, m), 7. 81(2H, d, J=9Hz).
 - ¹³C-NMR (CDCl₃) δ_c: 19.2, 21.6, 24.5, 25.8, 26.8, 54.9, 62.7, 68.8, 81.9, 85.6, 87.5, 108.7, 112.8, 127.7, 127.8, 128.2, 129.6, 129.9, 132.9, 135.6, 144.4.
- Anal. Calcd for C₃₃H₄₂O₈SSi:C, 63. 23; H, 6. 75; S, 5. 11. Found:C, 62. 99; H, 6. 5 3; S, 5. 13.
 - (3) メチル= $5-O-(t-ブチルジフェニルシリル)-4-(p-トルエンスルホニルオキシメチル)-<math>\beta-D-$ リボフラノシド(16)の合成

化合物 1.5(645 mg, 1.03 mmol)の $\text{THF-H}_20[11 \text{m1}, 8:3(v/v)]$ 溶液に室温でトリフロロ酢酸(14 m1)を加え、室温で2.0分撹拌した。溶媒を減圧留去し、得られた粗成績体をシリカゲルカラムクロマトグラフィー (hexane:AcOEt=5:1)により精製し、無色油状物質 1.6(464 mg, 0.79 mmol, 77%)を得た。

5 [α]_D¹⁷-35.8° (c=1.90, CHCl₃) IR ν (KBr):3499, 3051, 2931, 2840, 1594, 146 8, 1362, 1109cm⁻¹.

 1 H - N M R (C D C $_{13}$) δ : 1. 02(9H, s), 2. 42(3H, s), 3. 16(3H, s), 3. 54, 3. 70(2H, AB, J=10Hz), 3. 97(1H, d, J=5Hz), 4. 18(1H, d, J=5Hz), 4. 26, 4. 39(2H, AB, J=10Hz), 4. 73(1H, s), 7. 30(2H, d, J=8Hz), 7. 36-7. 44(6H, m), 7. 59-7. 66(4H, m), 7. 78(2H, d, J=8Hz).

¹³C - NMR (CDC 1₃) δ_c: 19. 2, 21. 6, 26. 7, 55. 2, 66. 5, 69. 6, 74. 0, 75. 2, 76. 5, 84. 8, 107. 5, 127. 7, 128. 0, 129. 8, 132. 6, 132. 7, 132. 8, 135. 5, 135. 6, 144. 9.

Anal. Calcd for C₃₀H₃₈SSiO₈•1/4 H₂O:C, 60. 94; H, 6. 56. Found:C, 60. 94; H, 6. 4 3.

- (4) メチル=5-O-(t-ブチルジフェニルシリル)-2-O, 4-C- メチレン- $\beta-D-$ リボフラノシド (17) 及び メチル=5-O-(t-ブチルジフェニルシリル)-3-O, 4-C- メチレン- $\beta-D-$ リボフラノシド (18) の合成
- 室素気流下、化合物 1 6 (194mg, 0.33mmol)の無水 THF溶液 (4ml)に室温で NaHMDS(3.30mmol)のbenzene懸濁液 (1.6ml)を加え、室温で 1 時間撹拌した。反 応溶液に飽和重曹水を加えた後、反応溶媒を留去し、Ac0Etで 3 回抽出した。有 機層を飽和食塩水で 1 回洗浄後、無水Na₂SO₄にて乾燥した。溶媒を減圧留去し、得られた粗成績体をシリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン:Ac0Et=5:
- 25 1)により精製し、無色油状物質 1 7 (48mg, 0.116mmol, 35%)及び無色油状物質 1 8 (59mg, 0.142mmol, 43%)を得た。

化合物 1 7:IRν(KBr):3438, 3064, 1103, 1036cm⁻¹.

10

15

 $^{1}H - NMR$ (CDC1₃) δ : 1.08(9H, s), 2.04(1H, br s), 3.39(3H, s), 3.65,

3. 98(2H, AB, J=8Hz), 3. 95, 4. 02(2H, AB, J=12Hz), 4. 02(1H, s), 4. 30(1H, s), 4. 79 (1H, s), 7. 38-7. 46(6H, m), 7. 65-7. 69(4H, m).

- ¹³C NMR (CDC 1₃) δ_c: 19. 2, 26. 7, 55. 0, 60. 7, 71. 2, 73. 1, 79. 9, 85. 5, 104. 3, 127. 8, 129. 9, 130. 0, 132. 9, 135. 6, 135. 7.
- 5 Anal. Calcd for C₂₃H₃₀O₅Si·1/4 H₂O:C, 65. 68; H, 7. 34. Found:C, 65. 98; H, 7. 23. 化合物 1 8:IRν(KBr):3456, 3058, 2938, 2852, 1467, 1108cm⁻¹.

 ¹ H NMR (CDCl₃) δ: 1. 10(9H, s), 3. 26(3H, s), 3. 71(2H, s), 4. 02(1H, d, J=6Hz), 4. 35, 4. 95(2H, d, J=7Hz), 5. 01(1H, s), 5. 11(1H, d, J=6Hz), 7. 38-7. 4 4(6H, m), 7. 66(4H, d, J=7Hz).
- 10 13 C-NMR (CDC1₃) δ_c : 19. 3, 26. 8, 55. 4, 63. 7, 75. 1, 77. 9, 84. 5, 86. 3, 111. 9, 127. 8, 128. 0, 129. 9, 132. 9, 133. 0, 135. 6, 135. 8, 135. 9. Anal. Calcd for $C_{23}H_{30}O_5Si \cdot 1/4$ $H_2O:C$, 65. 91; H, 7. 34. Found:C, 66. 07; H, 7. 14. (5) $\mathcal{L}_{23}H_{30}O_5Si \cdot 1/4$ $\mathcal{L}_{20}CO_5Si \cdot 1/4$ \mathcal

15

の合成

窒素気流下、化合物 1 7 (704mg, 1.70mmo1)の無水ピリジン溶液 (10m1)に室温で無水酢酸(0.38m1, 4.08mmo1)、4 ージメチルアミノピリジン(21mg, 0.170mmo1)を加え、室温で3時間撹拌した。反応溶液に飽和重曹水を加えた後、AcOEtで3回抽出した。有機層を飽和食塩水で1回洗浄後、無水Na₂SO₄にて乾燥した。溶媒を20 減圧留去し、得られた粗成績体をシリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン:AcOEt=7:1)により精製し、無色油状物質19(665mg, 1.46mmo1,86%)を得た。[α]_□17-34.3° (c=0.93, CHC1₃) IR ν (KBr):3438, 3064, 2934, 1749, 1468, 110 3, 1036cm⁻¹.

 1 H - NMR (CDCl₃) δ : 0.99(9H, s), 1.97(3H, s), 3.34(3H, s), 3.69, 3.8 6(2H, AB, J=8Hz), 3.86(2H, s), 4.17(1H, s), 4.77(1H, s), 5.06(1H, s), 7.28-7.3 9(6H, m), 7.58-7.63(4H, m).

¹³C - NMR (CDC 1₃) δ_c: 19. 3, 20. 9, 26. 7, 55. 0, 60. 3, 72. 0, 73. 6. 78. 3, 85. 3, 104. 4, 127. 7, 129. 8, 133. 0, 135. 6, 169. 8.

Anal. Calcd for $C_{25}H_{32}O_6Si \cdot 1/4$ $H_2O:C$, 65. 12; H, 7. 10. Found:C, 65. 27; H, 7. 00. (6) 5'-O-(t-ブチルジフェニルシリル)-2'-O, 4'-C-メチレン-5-メチルウリジン(20)の合成

窒素気流下、化合物 1 9 (109. 2g, 0. 239mmo1)の無水 C H₃ C N溶液 (2m1)に室温でO, O'ービストリメチルシリルチミン(154mg, 0. 598mmo1)を加えた後、氷冷下でトリメチルシリルトリフルオロメタンスルホネート(0. 82m1, 8. 74mmo1)の 1. 1ージクロロエタン(0. 31m1)溶液を加え、室温で 1 8 時間撹拌した。反応溶液をC H₂ C 1₂で希釈し、飽和重曹水を加えた後、Ac0Etで3回抽出した。有機層を飽和食塩水で1回洗浄後、無水Na₂SO₄にて乾燥した。溶媒を減圧留去し、得られた粗成績体をシリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン: Ac0Et=3:1)により精製し、無色油状物質 2 O (87. 7mg, 0. 173mmo1, 70%)を得た。IR ν (KBr):3048, 2935, 2852, 1749, 1466, 1369, 1234, 1108, 1040cm⁻¹. 1H − NMR (C D C 1₃) δ:1.06(9H, s), 1.94(3H, s), 2.98(1H, br s), 3.63, 4.00(2H, AB, J=10Hz), 3.72(1H, d, J=7Hz), 3.82-3.84(2H, m), 4.30(1H, s), 5.25 (1H, s), 7.40-7.46(6H, m), 7.60(4H, d, J=6Hz), 7.66(1H, s), 9.68(1H, br s).

5

10

15

[実施例3] ヌクレオシド類縁体の合成 (別法)

5

10

15

20

(1) $3-O-ベンジル-5-O-t-ブチルジフェニルシリル-4-(ヒドロキシメチル)-1, 2-O-イソプロピリデン-<math>\alpha-D-$ エリスロペントフラノース(32)の合成

窒素気流下、氷冷下で前記文献 5) に従って調整した化合物 3 1 (2.50 g, 8.0 8 nmol) の塩化メチレン溶液 (50 ml) に、トリエチルアミン (3.71 ml, 26.6 m mol)、t-ブチルジフェニルシリルクロリド <math>(6.94 ml, 26.7 nmol) を加え、室温で 10.5 時間撹拌した。反応溶液に飽和重曹水を加えた後、酢酸エチルで抽出した。有機層を飽和食塩水で洗浄後、硫酸ナトリウムで乾燥した。溶媒を減圧留去し、得られた粗成績体をシリカゲルカラムクロマトグラフィー $(AcOEt-へキサン,1:4\rightarrow1:3)$ により精製し、白色固体 (32)(2.97 g, 5.41 nmol, 67%) を得た。

mp. 98 - 99 °C (\land + \forall). [α] $_{\text{D}}^{20} + 54.8$ ° (c = 1.12, \forall + \Rightarrow). IR ν max (KBr) : 3553, 2936, 1463, 1379, 1107 cm $^{-1}$. 1 H-NMR (CDCl $_{3}$) δ : 1.13 (9H, s), 1.50 (3H, s), 1.78 (3H, s), 2.56 (1H, t, J = 7 Hz), 3.82, 3.92 (2H, AB, J = 11 Hz), 3.94 (2H, t, J = 6 Hz), 4.57 (1H, d, J = 5 Hz), 4.64, 4.95 (2H, AB, J = 12 Hz), 4.83 (1H, dd, J = 4, 5 Hz), 5.95 (1H, d, J = 4 Hz), 7.44-7.55 (11H, m), 7.72-7.78 (4H, m). 13 C-NMR (CDCl $_{3}$) δ $_{c}$: 19.2, 26.2, 26.5, 26.8, 63.2, 65.4, 72.5, 77.9, 79.1, 87.4, 104.4, 113.7, 127.6, 127.7, 128.0, 128.5, 129.5, 129.7, 132.9, 133.1, 134.7, 135.5, 137.2.

Anal. Calcd for $C_{32}II_{40}O_{6}Si$: C, 70.04; H, 7.38. Found: C, 70.19; H, 7.35.

窒素気流下、氷冷下で3 2(250 mg, 0.456 mmol) の塩化メチレン溶液に、トリエチルアミン (395 μ1, 2.83 mmol)、p-トルエンスルホニルクロリド (139.2

mg, 0.730 mmol) 及び 4-ジメチルアミノピリジン (8.92 mg, 0.0730 mmol) を加え、室温で 15.5 時間撹拌した。反応溶液に飽和重曹水を加えた後、酢酸エチルで抽出した。有機層を飽和食塩水で洗浄後、硫酸ナトリウムにて乾燥した。溶媒を減圧留去し、得られた粗成績体をシリカゲルカラムクロマトグラフィー (Ac 0Et-ヘキサン, 1:6) により精製し、淡黄色油状物質 (33) (310.6 mg, 0.442 mmol, 97%) を得た。

5

20

25

[α] p²⁰ + 16.0° (c = 0.44, \mathcal{T} th >>). IR ν max (KBr): 2935, 1595, 146 2. 1363, 1174, 1106 cm⁻¹. ¹H-NMR (CDCl₃) δ: 1.08 (9H, s), 1.40 (3H, s), 1.46 (3H, s), 2.48 (3H, s), 3.68, 3.83 (2H, AB, J = 11 Hz), 4.45 (2H, dd, J = 4, 5 Hz), 4.64, 4.81 (2H, AB, J = 12 Hz), 4.68 (1H, dd, J = 4, 5 Hz), 5.81 (1H, d, J = 4 Hz), 7.32 (2H, d, J = 8 Hz), 7.42-7.72 (15H, m), 7.82, (2H, d, J = 8 Hz), 7.66 (4H, m), 7.72 (2H, d, J = 8 Hz). ¹³C-NMR (CDCl₃) δ_c: 19.1, 21.5, 26.1, 26.4, 26.7, 64.4, 70.0, 72.5, 78.1, 78.9, 85.4, 104.2, 113.6, 127.3, 127.7, 127.9, 128.0, 128.4, 129.6, 129.7, 12 9.8, 132.7, 132.8, 135.5, 137.2, 144.4, MS (EI) m/z: 646 (M*-t-Bu). Hi gh-MS (EI): Calcd for C₃₅H₃₇O₈SSi (M*-t-Bu): 645.1978, Found: 645.19

(3) 1, 2-9-0-7セチルー3-0-4ンジルー5-0-1-ブチルジフェニルシリルー4-(p-1)-ルエンスルホニルオキシメチル) $-\alpha-1$ および $-\beta-1$ -リボフラノース (34) の合成

IR ν max (KBr): 2934, 2863, 1751, 1365, 1217, 1106 cm⁻¹. ¹H-NMR (CDCl₃)

[β体] δ : 1.02 (9H, s), 1.77 (3H, s), 1.98 (3H, s), 2.39 (3H, s), 3.61, 3.76 (2H, AB, J = 11 Hz), 4.21-4.58 (5H, m), 5.26 (1H, d, J = 5 Hz), 5. 94 (1H, s), 7.15-7.59 (13H, m), 7.58-7.66 (4H, m), 7.72 (2H, d, J = 8 Hz) . [α体] d: 1.02 (9H, s), 1.98 (3H, s), 2.36 (3H, s), 3.48, 3.58 (2H, AB, J = 11 Hz), 4.21-4.58 (5H, m), 5.12 (1H, dd, J = 5, 6 Hz), 6.33 (1H, d, J = 5 Hz), 7.15-7.59 (13H, m), 7.58-7.66 (4H, m), 7.72 (2H, d, J = 8 Hz) . 13C-NMR (CDC1₃) δ : 14.2, 19.3, 20.5, 20.8, 21.6, 26.7, 26.8, 60.3, 64.8, 69.1, 73.6, 74.1, 78.6, 85.3, 97.4, 127.4, 127.6, 127.7, 127.8, 127.9, 128.0, 128.2, 128.3, 128.4, 129.5, 129.6, 1289.8, 129.9, 132.4, 132.8, 132.9, 135.4, 135.5, 135.6, 136.9, 144.5, 168.7, 169.4, High-MS(FAB): Calcd for $C_{40}H_{46}N_2O_{10}SSiNa$ (M*+Na): 769.2479, Found: 769.2484.

- (4) 2'-O-アセチルー3'-O-ベンジルー5'-O-t-ブチルジフェ ニルシリルー4'-p-トルエンスルホニルオキシメチルー5-メチルウ リジン(35)の合成
- 室素気流下、氷冷下で34(1.88g, 2.52 mmol) の 1,2-ジクロロエタン溶液 (26 ml) に 2TMS・T (1.04 g, 4.03 mmol) 及びトリメチルシリルトリフルオロメタンスルホナート (730 μl, 4.03 mmol) を加え、室温で 17 時間撹拌した。反応溶液に飽和重曹水を加え、セライト濾過した後、母液をクロロホルムで抽出した。有機層を飽和食塩水で洗浄後、硫酸ナトリウムにて乾燥した。溶媒を減圧留去して得られた粗成績体をシリカゲルカラムクロマトグラフィー (Ac0Et-ヘキサン, 2:3) により精製し、白色粉末 (35)(2.00 g, 2.44 mmol, 97 %) を得た。

mp. 70 - 71.5 °C. [α] $_{D}^{24} + 4.58$ °(c = 1.25, $\mathcal{T} + \mathcal{T} + \mathcal{T}$). IR ν max (KBr) : 3059, 2934, 1694, 1465, 1368, 704 cm $^{-1}$. 1 H-NMR (CDC1 $_{3}$) δ : 1.18 (9H, s) . 1.63 (3H, d, J = 1 Hz), 2.10 (3H, s) , 2.42 (3H, s) , 3.73, 3.86 (2H, AB, J = 11 Hz), 4.12, 4.20 (2H, AB, J = 11 Hz), 4.44, 4.57 (2H, AB, J = 11 Hz) , 4.45 (1H, d, J = 6 Hz), 5.38 (1H, t, J = 6 Hz), 6.02 (1H, d, J = 6 Hz), 7.21-7.60 (13H, m), 7.62-7.69 (7H, m), 8.91 (1H, br s). 13 C-NMR

(CDC1₃) δ : 11. 9, 19. 3, 20. 6, 21. 6, 27. 0, 65. 3, 68. 6, 74. 1, 74. 8, 77. 2, 77. 3, 86. 0, 86. 4, 111. 6, 127. 9, 128. 0, 128. 2, 128. 5, 129. 7, 130. 1, 130. 2, 131. 8, 132. 3, 132. 5, 135. 3, 135. 5, 135. 6, 136. 8, 144. 9, 150. 2, 163. 4, 170. 2. MS (FAB) m/z : 813 (M+H).

- 5 Anal. Calcd for C₄₃H₄₈N₂O₁₀SSi·2H₂O: C, 60.83; H, 6.17; N, 3.30. Found: C, 60.55; H, 5.78; N, 3.22.
- (5) 3' -〇-ベンジル-5' -〇-t-ブチルジフェニルシリル-4' -p
 ートルエンスルホニルオキシメチル-5-メチルウリジン (36) の合成
 氷冷下、35(250 mg, 0.308 mmol) のメチルアルコール溶液 (4 ml) に炭酸
 カリウム (12.75 mg, 0.0923 mmol) 及び水 (0.5 ml) を加え、室温で 22 時間
 撹拌した。氷冷下、反応溶液に酢酸を加えて中和した後、溶媒を減圧留去した。
 残渣に水を加えた後、酢酸エチルで抽出した。有機層を飽和食塩水で洗浄した後、
 硫酸ナトリウムで乾燥した。溶媒を減圧留去した後、得られた粗成績体をシリカ
 ゲルカラムクロマトグラフィー (AcOEt-ヘキサン, 3:2) により精製し、白色粉
 末(36) (216.7 mg, 0.283 mmol, 92 %) を得た。
- mp. 74 77 °C. [α] $_{D}^{23} + 5.15$ ° (c = 1.23, CHCl₃). IR ν max (KBr) : 30 48, 2934, 1695, 1363, 1181, 1108, 977, 819, 704 cm-1. 1H-NMR (CDCl₃) d: 1.05 (9H, s), 1.65 (3H, d, J = 1 Hz), 2.39 (3H, s), 3.04 (1H, br d, J = 9 Hz), 3.72 (2H, s), 4.17 (2H, s), 4.18 (1H, d, J = 5 Hz), 4.24-4.32 (1H,
- 20 m), 4.54, 4.62 (2H, AB, J = 11 Hz), 5.62 (1H, d, J = 6 Hz), 7.19-7.69 (20H, m), 8.46 (1H, br s). $^{1.3}$ C-NMR (CDC1₃) δ c: 12.1, 19.4, 26.9, 58.8, 7 2.0, 72.2, 75.8, 76.7, 87.4, 88.8, 110.4, 127.7, 12.79, 128.1, 128.2, 12 8.5, 128.7, 129.8, 130.0, 130.1, 132.2, 134.3, 135.3, 135.5, 136.8, 149. 8, 163.9. MS (FAB) m/z : 771 (M++H).
- 25 Anal. Calcd for C₄₁H₄₆N₂O₉SSi: C, 63.41; H, 6.16; N, 3.51; S, 3.95. Found: C, 63.87; H, 6.01; N, 3.63; S, 4.16.

 (6) 3' -O-ベンジルー5' -O-tーブチルジフェニルシリルー2' -O.

4'-C-メチレン-5-メチルウリジン(37)の合成

窒素気流下、氷冷下で36(1.86 g, 2.42 mmol) のテトラヒドロフラン溶液 (30 ml) にナトリウムビス (トリメチルシリル) アミド (1.0 M in THF, 8.47 m 1, 8.47 mmol) を加え、室温で 1 時間撹拌した。反応溶液に飽和重曹水 (14 ml) を加えた後、溶媒を減圧留去した。残渣に水を加え、クロロホルムで抽出した。 5 有機層を飽和食塩水で洗浄した後、硫酸ナトリウムにて乾燥した。溶媒を減圧留 去し、得られた粗成績体をシリカゲルカラムクロマトグラフィー (AcOEt-ヘキサ ン, 2:3) により精製し、白色粉末(37)(1.42 g, 2.37 mmol, 98 %) を得た。 mp. 70.5-72 °C. [α] $_{\rm D}^{22}$ + 52.47 ° (c = 1.025, アセトン). IR $_{\rm D}$ max (KBr) : 2936, 1694, 1465, 1275, 1106, 1055, 809, 704 cm-1. 1 H-NMR (CDC1₃) δ : 10 1. 21 (9H, s), 1. 76 (3H, s), 3. 88, 4. 07 (2H, AB, J = 8 Hz), 4. 07, 4. 15 (2H, AB, J = 11 Hz), 4.16 (1H, s), 4.66, 4.80 (2H, AB, J = 11 Hz), 4.76(1H, s), 7.34-7.79 (16H, m), 10.0 (1H, br s). MS (FAB) m/z : 599 (M++H). Anal. Calcd for $C_{34}H_{38}N_{2}O_{6}Si \cdot 2H_{2}O$: C, 64.33; H, 6.03; N, 4.41. Found: C, 64.58; H, 6.15; N, 4.28. 15

(7) 3'-〇-ベンジルー2'-〇, 4'-C-メチレンー5-メチルウリジン(38)の合成

窒素気流下、3.7(188.7 ng, 0.316 mmol) のテトラヒドロフラン溶液(1 ml)に、テトラブチルアンモニウムフルオリド(1.0 M in THF, $379 \mu 1$, $0.379 \mu m$ ol)を加え、室温で $2.5 \text{ 時間撹拌した。反応溶液を減圧留去して得られた粗成$ 績体をシリカゲルカラムクロマトグラフィー(<math>AcOEt-へキサン, $1:1\rightarrow 1:0$)により精製し、白色粉末(3.8)(94.6 ng, 0.262 mmol, 83.8)を得た。

IR ν max (KBr) : 3424, 3183, 3063, 2950, 1691, 1463, 1273, 1057, 734cm⁻¹.
¹H-NMR (CDCl₃) δ : 1. 90 (3H, d, J = 1 Hz), 3. 83, 4. 05 (2H, AB, J = 8 Hz), 3. 93, 4. 02 (2H, AB, J = 12 Hz), 3. 94 (1H, s), 4. 53 (1H, s), 4. 56, 4. 58 (2H, AB, J = 12 Hz), 5. 65 (1H, s), 7. 32 (5H, s), 7. 44 (1H, d, J = 1 Hz).
High-MS (EI) :

Calcd for $C_{18}H_{20}NO_{6}$ (M⁺): 360.1321. Found: 360.1312.

25

(8) 2'-O, 4'-C-メチレン-5-メチレンウリジン(39a)の合成 化合物38(86.5 mg, 0.240 mmol)のメチルアルコール溶液(4 ml)に20% Pd(OH)₂-C(86.5 mg)を加え、水素気流下常圧にて14.5 時間撹拌した。反応溶液を濾過した後、溶媒を減圧留去して無色結晶(39)(62.5 mg, 0.230 mmol, 96%)を得た。

mp. 194- 195 °C. [α] $_{D^{20}}$ + 53.7 ° (c =1.02, EtOH). IR ν max (KBr) : 332 3, 3163, 3027, 2889, 2826, 1689, 1471, 1276, 1057 cm $^{-1}$. 1 H-NMR (CD₃OD) δ : 1.89 (3H, q, J = 1 Hz), 3.74, 3.95 (2H, AB, J = 8 Hz), 3.90 (1H, s), 4.07 (1H, s), 4.26 (1H, s), 5.53 (1H, s), 7.74 (1H, d, J = 1 Hz). 13 C-NMR (CD₃OD) δ c: 12.6, 57.6, 70.3, 72.4, 80.8, 88.3, 90.4, 110.7, 136.8, 151.8, 166.5.

[実施例4]

5

10

15

- 文献 6) (H. Vorbrggen, K. Krolikiewicz and B. Bennua, Chem., Ber., 114, 1234-1255 (1981)) に従って調整した 2TMS・A^{B2} (128.7 mg, 0.336 mmol) に窒素気流下、室温で34(250 mg, 0.336 mmol) の 1, 2-ジクロロエタン溶液 (5.0 ml) 及びトリメチルシリルトリフルオロメタンスルホナート (6.7 μl, 0.0336 mmol) を加え、26 時間加熱環流した。反応溶液に飽和重曹水を加えた後、塩化メチレンで3 回抽出した。有機層を飽和食塩水で洗浄後、硫酸ナトリウムにて乾燥した。溶媒を減圧留去し、得られた粗成績体をシリカゲルカラムクロマトグラフィー (CHC13-MeOH, 30:1) により精製し、白色粉末 (40) (234.5 mg, 0.253 mmol, 75 %) を得た。
- 25 mp. 77-78 °C (AcOEt / \land + + \lor). [α] $_{D}^{24}$ 13.2 ° (c = 1.00, CHCl₃). IR ν max (KBr) : 3058, 2934, 1749, 1703, 1606, 1105 cm⁻¹. 1 H-NMR (CDCl₃) δ : 0.99 (9H, s), 2.04 (3H, s), 2.38 (3H, s), 3.74, 3.85 (2H, AB, J = 1 Hz), 4.31, 4.43 (2H, AB, J = 11 Hz), 4.52, 4.58 (2H, AB, J = 11 Hz),

4. 81 (1H, d, J = 6 Hz), 5. 94 (1H, d, J = 6 Hz), 6. 04 (1H, d, J = 5 Hz), 7. 18 - 7. 61 (20H, m), 7. 69 (2H, d, J = 8 Hz), 7. 99 (1H, s), 8. 01 (2H, d, J = 7 Hz), 8. 56 (1H, s), 8. 99 (1H, br s). $^{1.9}$ C-NMR (CDC1₃) δ c: 19. 1, 20. 5, 21. 5, 26. 7, 64. 1, 68. 4, 74. 0, 74. 6, 77. 9, 86. 57, 86. 64, 123. 4, 127. 7, 127. 8, 127. 9, 128. 1, 128. 5, 128. 8, 129. 6, 129. 9, 132. 0, 132. 3, 132. 6, 1 32. 7, 133. 5, 135. 4, 135. 5, 136. 8, 142. 0, 144. 7, 149. 6, 151. 2, 152. 6, 164. 5, 169. 8. MS (FAB) m/z : 926 (M+H).

5

10

15

20

25

(2) 3'-O-ベンジル-5'-O-t-ブチルジフェニルシリル-4'-p $-トルエンスルホニルオキシメチル-N^6-ベンゾイルアデノシン(41)$ の合成

化合物 4 0(167.9 mg, 0.182 mmol) のメチルアルコール溶液 (3.0 ml) に室 温で炭酸カリウム (15.0 mg, 0.109 mmol) を加えた後、室温で 15 分撹拌した。 反応溶液に濃塩酸を加えて溶液を中和した後、塩化メチレンで 3 回抽出した。 有機層を飽和食塩水で洗浄後、硫酸ナトリウムにて乾燥した。溶媒を減圧留去し、 得られた粗成績体をシリカゲルカラムクロマトグラフィー (CHC13-MeOH, 30:1) により精製し、白色粉末(41)(140.5 mg, 0.160 mmol, 88 %)を得た。 mp. 82-83 °C (Ac0Et− $^{+}$ + $^{+}$). [α] $_{D}^{25}$ - 6.02 ° (c = 0.96, CHC1 $_{3}$). IR ν max (KBr): 3306, 3066, 2935, 2859, 1701, 1611 cm⁻¹. ¹H-NMR (CDCl₃) δ : 0.98 (9H, s), 2.37 (3H, s), 3.76 (2H, s), 4.39, 4.45 (1H, AB, J = 11 Hz), 4.54 (1H, d, J = 6 Hz), 4.67, 4.76 (2H, AB, J = 11 Hz), 4.85 (1H, dd, J = 5, 6 Hz), 5.79 (1H, d, J = 5 Hz), 7.20 - 7.58 (21H, m), 7.73 (2H, d, J = 8 Hz), 7.80 (1H, s), 7.96 (2H, d, J = 8 Hz), 8.49 (1H, s), 9.18 (1H, br s). 13 C-NMR (CDCl₃) δ c: 19.1, 21.6, 26.8, 64.4, 68.9, 74.1, 74. 6, 79. 2, 86. 8, 89. 8, 123. 1, 127. 7, 127. 8, 128. 0, 128. 2, 128. 4, 128. 6, 12 8. 8. 129. 7. 130. 0. 132. 1. 132. 5. 132. 6. 132. 8. 133. 4. 135. 4. 135. 5. 136. 8, 142. 1, 144. 8, 149. 4, 152. 3, 164. 5.

(3) 3' - O - ベンジル - 5' - O - t - ブチルジフェニルシリル - 2' - O, $4' - C - メチレン - N^6 - ベンジルアデノシン(42)の合成$

窒素気流下、41(210.5 mg, 0.238 mmo1)のテトラヒドロフラン溶液(8.0 m 1)に室温でナトリウムビス(トリメチルシリル)アミド(1.0 M in THF, 0.58 m1, 0.572 mmo1)を加えた後、室温で3時間撹拌した。反応溶液に飽和重曹水を加えた後、塩化メチレンで3回抽出した。有機層を飽和食塩水で洗浄後、硫酸ナトリウムにて乾燥した。溶媒を減圧留去し、得られた粗成績体をシリカゲルカラムクロマトグラフィー(CHC13-MeOH, 30:1)により精製し、白色粉末(42)(169.5 mg, 0.238 mmo1, quant.)を得た。

mp. 80-81 °C. IR ν max (KBr): 3259, 3064, 2932, 2858, 1703, 1607 cm⁻¹.

'H-NMR (CDCl₃) δ : 1.07 (9H, s), 3.95, 4.10 (2H, AB, J = 8 Hz), 4.02 (2 H, d, J = 8 Hz), 4.56, 4.64 (2H, AB, J = 12 Hz), 4.26 (1H, s), 4.86 (1H, s), 6.14 (1H, s), 7.26-7.70 (18H, m), 8.04 (2H, d, J = 7 Hz), 8.22 (1 H, s), 8.78 (1H, s), 9.18 (1H, br s).

'3C-NMR (CDCl₃) δ c: 19.2, 26.5, 2 6.8, 29.7, 59.2, 72.4, 72.6, 76.5, 76.8, 86.7, 88.6, 123.4, 127.7, 127.8, 127.9, 128.1, 128.4, 128.8, 129.5, 130.0, 132.4, 132.5, 132.8, 133.5, 1 34.8, 135.2, 135.5, 135.6, 136.8, 140.4, 152.7.

10

15

20

25

化合物 4 2 (173.6 mg, 0.244 mmol) のテトラヒドロフラン溶液 (7.0 ml) に 室温でテトラブチルアンモニウムフルオリド (1.0 M in THF, 1.0 ml, 1.0 mmol) を加え、室温で 25 分撹拌した。反応溶液を減圧留去して得られた粗成績体を シリカゲルカラムクロマトグラフィー (CHCl₃-MeOH, 15:1) により精製し、白色 粉末 (43) (115.4 mg, 0.244 mmol, quant.) を得た。

mp. 154 - 155 °C (Et20). IR ν max (KBr) : 3339, 2944, 1701, 1611 cm⁻¹. ¹ H-NMR (CDC1₃) δ : 3. 91, 4. 13 (2H, AB, J = 8 Hz), 3. 93, 4. 01 (2H, AB, J = 12 Hz). 4. 38 (1H, s), 4. 64 (1H, s), 4. 85 (1H, s), 6. 08 (1H, s), 7. 29 (1 H, s), 7. 51 (2H, d, J = 8 Hz), 7. 58 (1H, d, J = 7 Hz), 8. 05 (2H, d, J = 7 Hz), 8. 14 (1H, s), 8. 75 (1H, s), 9. 50 (1H, br s). ¹³C-NMR (CDC1₃) δ c: 57. 1, 72. 4, 77. 0, 77. 1, 86. 9, 88. 6, 122. 9, 127. 6, 128. 0, 128. 1, 128. 4,

128.7. 132.8, 133.5, 136.9, 140.5, 149.8, 150.5, 152.8, 165.0. [実施例5]

5

(1) $2' - O - アセチル - 3' - O - ベンジル - 5' - O - t - ブチルジフェ ニルシリル - 4' - p - トルエンスルホニルオキシメチル - <math>N^2$ - イソブ チリルグアノシン(44)の合成

前記の文献 6) に従って調整した 3TMS・G'B" (146.8 mg, 0.336 mmol) に窒素気流下、室温で 4 (250 mg, 0.336 mmol) の 1, 2-ジクロロエタン溶液 (5.0 ml) 及びトリメチルシリルトリフルオロメタンスルホナート (6.7 μl, 0.0336 mmol) を加え、15 時間加熱還流した。反応溶液に飽和重曹水を加えた後、塩化 メチレンで 3 回抽出した。有機層を飽和食塩水で洗浄後、硫酸ナトリウムにて乾燥した。溶媒を減圧留去し、得られた粗成績体をシリカゲルカラムクロマトグラフィー (CHC13-MeOH, 30:1) により精製し、白色粉末 (44) (213.6 mg, 0.2 35 mmol, 70 %) を得た。

mp. 96 - 97 °C (Ac0Et $- \stackrel{*}{\sim} + \stackrel{*}{\rightarrow} \stackrel{*}{\rightarrow}$). [α] $_{D^{24}}$ -11.09 ° (c = 0.97, CHC1 $_3$). I R ν max (KBr) : 3152, 3065, 2934, 1746, 1681, 1606 cm $^{-1}$. 1 H-NMR (CDC1 $_3$) d: 0.96 (9H, s), 1.10 (3H, d, J = 9 Hz), 1.13 (3H, d, J = 9 Hz), 1.98 (3H, s), 2.36 (3H, s), 2.48 (1H, m), 3.65, 3.72 (2H, AB, J = 11 Hz), 4.2 3, 4.43 (2H, AB, J = 11 Hz), 4.47 (2H, s), 4.63 (1H, d, J = 6 Hz), 5.74 (1H, t, J = 6 Hz), 5.96 (1H, d, J = 6 Hz), 7.14 - 7.68 (20H, m), 9.15 (1 H, s), 12.20 (1H, s). 13 C-NMR (CDC1 $_3$) δ c: 19.1, 19.3, 19.4, 20.8, 21.9, 27.0, 27.2, 36.5, 64.5, 68.9, 74.4, 74.9, 76.7, 86.1, 86.7, 122.0, 127. 6, 127.7, 127.9, 128.1, 128.3, 128.4, 128.8, 130.1, 130.4, 132.3, 132.7, 132.9, 135.7, 135.8, 137.3, 137.8, 145.2, 147.8, 148.5, 156.2, 170.2, 178.8.

(2) (3) (3) (3) (3) (3) (3) (3) (3) (3) (3) (3) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (5) (5) (5) (6) (6) (7

化合物 4 4(137.0 mg, 0.151 mmol) のメチルアルコール溶液 (3.0 ml) に室

温で炭酸カリウム(15.8 mg, 0.113 mmol)を加えた後、室温で 45 分撹拌した。 反応溶液に濃塩酸を加えて溶液を中和した後、塩化メチレンで 3 回抽出した。 有機層を飽和食塩水で洗浄後、硫酸ナトリウムにて乾燥した。溶媒を減圧留去し、 得られた粗成績体をシリカゲルカラムクロマトグラフィー (CHC13-MeOH, 30:1) により精製し、白色粉末45(83.4 mg, 0.097 mmol, 64 %) を得た。 5 mp. 102 - 103 °C (Ac0Et- \wedge + ψ). [α] $_{D}^{25} - 2.00$ ° (c = 0.40, CHC1 $_{3}$). IR ν max (KBr) : 3166, 2932, 1684, 1607 cm⁻¹. ¹H-NMR (CDCl₃) δ : 0.90 (9H, s), 1.09 (3H, d, J = 7 Hz), 1.13 (3H, d, J = 7 Hz), 2.30 (1H, m), 2. 37 (3H, s), 3.71, 3.76 (2H, AB, J = 11 Hz), 4.32, 4.48 (2H, AB, J = 11 Hz) z), 4.35 (1H, d, J = 6 Hz), 4.63, 4.90 (2H, AB, J = 12 Hz), 4.96 (1H, t, 10 J = 6 Hz), 5.67 (1H, d, J = 7 Hz), 7.17 - 7.71 (20H, m), 8.82 (1H, s), 12.05 (1H, br s). 13 C-NMR (CDC1₃) δ c: 18.7, 19.0, 21.6, 26.5, 36.2, 63.5, 69. 1, 73. 7, 74. 3, 78. 8, 86. 2, 89. 5, 127. 7, 127. 8, 128. 0, 128. 1, 128. 5, 129. 7. 130. 0. 132. 0. 132. 6. 132. 7. 135. 3. 135. 4. 137. 4. 138. 2. 144. 8. 14 15 6. 9, 155. 5, 178. 5.

(3) 3' - O - ベンジル - 5' - O - t - ブチルジフェニルシリル - 2' - O, $4' - C - メチレン - N^2 - イソブチリルグアノシン(46)の合成$

窒素気流下、45(92.1 mg, 0.102 mmol) のテトラヒドロフラン溶液(3.0 ml) に室温でナトリウムビス(トリメチルシリル) アミド(1.0 M in THF, 0.31 ml, 0.315 mmol) を加えた後、室温で 3 時間撹拌した。反応溶液に飽和重曹水を加えた後、塩化メチレンで 3 回抽出した。有機層を飽和食塩水で洗浄後、硫酸ナトリウムにて乾燥した。溶媒を減圧留去し、得られた粗成績体をシリカゲルカラムクロマトグラフィー(CHC13-MeOH, 25:1) により精製し、白色粉末(46)(31.4 mg, 0.160 mmol, 44%) を得た。

25 mp. 99 - 100 °C. IR ν max (KBr) : 3162, 3068, 2932, 1683, 1610 cm⁻¹. ¹H-NMR (CDCl₃) δ: 1.06 (9H, s), 1.25 (3H, d, J = 7 Hz), 1.27 (3H, d, J = 7 Hz), 2.64 (1H, m), 3.83, 4.01 (2H, AB, J = 8 Hz), 3.97 (2H, d, J = 7 Hz), 4.18 (1H, s), 4.51 (1H, s), 4.54 (2H, d, J = 2 Hz), 5.77 (1H, s), 7.

17-7. 42 (5H, m), 7. 64 - 7. 72 (10H, m), 7. 84 (1H, s), 9. 03 (1H, s), 12. 08 (1H, br s). $^{1.3}$ C-NMR (CDC1₃) δ c: 18. 9, 19. 0, 19. 1, 26. 5, 26. 7, 36. 4, 59. 1, 72. 4, 72. 5, 76. 8, 77. 5, 86. 3, 88. 3, 121. 7, 127. 6, 127. 7, 127. 8, 127. 9, 128. 1, 128. 4, 129. 6, 130. 0, 132. 36, 132. 42, 134. 8, 135. 45, 135. 54, 135. 8, 136. 8, 146. 8, 147. 7, 155. 4, 178. 6.

(4) 3' - O - ベンジル <math>1 - 2' - O, $4' - C - メチレン - N^2 - イソプチ$ リルグアノシン (47) の合成

化合物 4 6 (41.3 mg, 0.060 mmol) のテトラヒドロフラン溶液 (3.0 ml) に室温でテトラブチルアンモニウムフルオリド (1.0 M in THF, 0.90 ml, 0.90 mm ol) を加えた後、室温で 1 時間撹拌した。反応溶液を減圧留去して得られた粗成績体をシリカゲルカラムクロマトグラフィー (AcOH-EtOH, 20:1) により精製し、白色粉末 (47) (27.1 mg, 0.060 mmol, quant.) を得た。

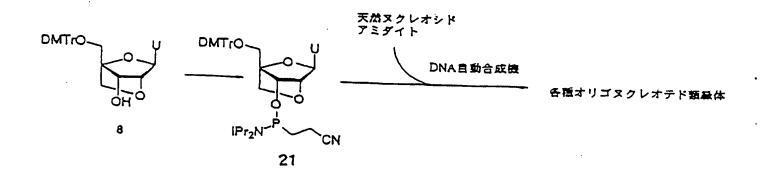
mp. 228 - 229 °C (Et20). [α] $_{0}^{25}$ + 32. 90 ° (c = 0.875, CHC1 $_{3}$). IR ν max (KBr) : 3162, 2934, 1683, 1608 cm $^{-1}$. 1 H-NMR (CDC1 $_{3}$) δ : 1. 24 (3H, d, J = 7 Hz), 1. 26 (3H, d, J = 7 Hz), 2. 76 (1H, m), 3. 83, 4. 03 (2H, AB, J = 8 Hz), 3. 92, 4. 02 (2H, AB, J = 13 Hz), 4. 33 (1H, s), 4. 55 (1H, s), 4. 62 (2H, s), 5. 80 (1H, s), 7. 25 (5H, s), 7. 91 (1H, s), 9. 85 (1H, s), 12. 05 (1H, s). 13 C-NMR (CDC1 $_{3}$) δ c: 19. 19, 19. 25, 36. 4, 57. 4, 72. 5, 77. 0, 77. 5, 86. 5, 88. 8, 121. 0, 127. 8, 128. 1, 128. 2, 128. 3, 128. 4, 128. 6, 137. 1, 137. 5, 147. 5, 148. 2, 155. 7, 179. 9.

[実施例6] オリゴヌクレオチド類縁体の合成

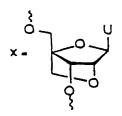
5

15

20



> 5'-GCGXTTTTTGCT-3' (XT8) 5'-GCGTTXTTTGCT-3' 5'-GCGTTTXTTGCT-3' 5'-GCGTTTTTXGCT-3' 6'-GCGXXTTTTGCT-3' 5'-GCGTTXXTTGCT-3' (T2X2T2) 5'-GCGTTTTXXGCT-3' (T4X2) 5'-GCGXXXXXXGCT-3' (X6) 5'-GTTTTTTTXXC-3' (X2)



(1) 3'-O-[2-シアノエトキシ (ジイソプロピルアミノ) ホスフィノ]-ウリジン(21)の合成

化合物 8 (200 mg, 0.31 mmol)、ジイソプロピルアンモニウム テトラゾリ ド (39.6 mg, 0.23 mmol)を無水 CH₃CN で3回共沸した後、無水 CH₃CN - 無水 THF溶液 (3:1, 4 ml)とし、窒素気流下2-シアノエチル N, N, N', N'ーテトラ イソプロピル ホスホロジアミダイト (0.12 ml, 0.37 mmol)を加え、室温で90 分間撹拌した。溶媒を減圧留去し、得られた粗成績体をシリカゲルカラムクロマ トグラフィー (AcOEt: ヘキサン: Et₃N = 75:25:1) により精製後、AcOEt-ヘキ サンにて再沈澱し、アミダイト体21 (181 mg, 0.25 mmol, 81%) を得た。

mp71-74 °C (Ac0Et- \sim + \forall ν). ³¹P-NMR (CDC1₃): δ 149.6, 149.5, 149.4, 149. 3. 149. 2.

(2) オリゴヌクレオチド類縁体の一般合成 オリゴマーの合成は Pharmacia社 製DNA合成装置 Gene Assembler Plusにより0.2 μmolスケールで行った。溶 媒、試薬、ホスホロアミダイトの濃度は天然DNA合成の場合と同じである。3' -水酸基がCPG支持体に結合した5'-O-DMTr-チミジン(0.2 μmol)のDMTr 基をトリクロロ酢酸によって脱保護し、その5'-水酸基に天然DNA合成用の4 種の核酸塩基からなるアミダイトおよび化合物21を用いて縮合反応を繰り返し 行い、それぞれの配列のオリゴヌクレオチド類縁体を合成した。合成サイクルは 下記の通りである。

合成サイクル (0.2 μmol scale)

- 1) detritylation 1% CCl₃COOH in CH₂ClCH₂Cl, 6 sec
- 2) coupling

5

10

15

20

0.1 M phosphoramidite (25 equiv.).

0.5 M 1H-tetrazole (500 equiv.) in MeCN, 2 min

3) capping 3% 4-(dimethylamino)pyridine, 10% Ac₂0,

in MeCN, 18 sec

4) oxidation 0.01 M I₂ in 2, 4, 6-collidine/ $H_2O/MeCN(1:5:11)$, 6 sec

合成後は、常法に従って、濃アンモニア水処理によりオリゴマーを支持体から切り出すとともに、リン原子上の保護基シアノエチル基をはずし、さらにはアデニン、グアニン、シトシンの保護基をはずした。

得られた5'-O-DMTr化されたオリゴヌクレオチド類縁体は、逆相カラムクロマト (Millipore, Oligo-Pak TM SP) 上でトリフルオロ酢酸5 m l により DMT r 基をはずし、引き続き精製を行い、目的のオリゴヌクレオチド類縁体を 得た。

本一般合成法に従って、以下のオリゴヌクレオチド類縁体を合成した。

- (2) 5' GCGXTTTTTGCT 3' (XT5)
- 10 収量 $0.06 \mu mol (30\% yield)$

5

- (3) 5'-GCGTTXTTTGCT-3' (T2XT3)
 収量 0.05 μmol (25% yield)
- (4) 5'-GCGTTTXTTGCT-3'(T3XT2) 収量 0.03 μmol (15% yield)
- 15 (5) 5' -GCGTTTTTXGCT-3' (T5X) 収量 0.06 μmol (30% yield)
 - (6) 5' -GCGXXTTTTGCT-3' (X2T4) 収量 0.06 μmol (30% yield)
 - (7) 5' GCGTTXXTTGCT 3' (T2X2T2)
- 20 収量 0.05 μmol (25% yield)
 - (8) 5'-GCGTTTTXXGCT-3' (T4X2) 収量 0.06 μmol (30% yield)
 - (9) 5' -GCGXXXXXXGCT-3' (X6)

収量 $0.06~\mu\,\mathrm{mol}$ (30% yield)

 $(10)\ 5'\ -GTTTTTTTTXXC-3'\ (X2)$

収量 $0.07~\mu\,\mathrm{mol}$ (35% yield)

WO⁻98/39352 PCT/JP98/00945

[実験例1] 融解温度 (Tm)の測定

実施例2で合成した種々のオリゴヌクレオチド類縁体をアンチセンス鎖とし、 天然のDNAあるいはRNAからなるセンス鎖とをアニーリング処理したものの 融解温度(Tm値)を測定することにより、本発明のオリゴヌクレオチド類縁体 の相補DNAおよびRNAに対するハイブリッド形成能を調べた。

終濃度をそれぞれ、NaCl 100mM、リン酸ナトリウム緩衝液(pH7. 2)10mM、アンチセンス鎖 4μ M、センス鎖 4μ Mとしたサンプル溶液(500 μ L)を沸騰水中に浴し、10時間をかけてゆっくり室温まで冷却した。分光光度計(島津 UV-2100PC)のセル室内に結露防止のために窒素気流を通し、サンプル溶液を5℃まで徐々に冷却し、さらに20分間5℃に保った後、測定を開始した。サンプル温度は90℃まで毎分0.2℃ずつ上昇させ、0.1℃間隔で260nmにおける紫外線吸収を測定した。なお、温度上昇とともにサンプル濃度が変化するのを防ぐため、セルは蓋付きのものを用い、サンプル溶液表面に鉱油を1滴添加して測定した。

15 結果は、下記の表に示した。

5

表1. アンチセンスオリゴヌクレオチド類縁体の相補DNA及びRNAに対する 融解温度 (Tm値)

| アンチセンス分子 | 相補 DNA°'とのTm | 相補 RNAいとのTm |
|------------------------------|--------------|-------------|
| | (△Tm/mod.) | (△Tm/mod.) |
| 5'-GCGTTTTTTGCT-3'(天然) | 47℃ | 45℃ |
| 5' -GCGXTTTTTGCT-3' (XT5) | 50°C (+3°C) | 49°C (+4°C) |
| 5' -GCGTTXTTTGCT-3' (T2XT3) | 49℃ (+2℃) | 49°C (+4°C) |
| 5' -GCGTTTXTTGCT-3' (T3XT2) | 49℃ (+2℃) | 50°C (+5°C) |
| 5' -GCGTTTTTXGCT-3' (T5X) | 52°C (+4°C) | 51℃ (+6℃) |
| 5' -GCGXXTTTTGCT-3' (X2T4) | 51°C (+2°C) | 53°C (+4°C) |
| 5' -GCGTTXXTTGCT-3' (T2X2T2) | 49℃ (+1℃) | 53°C (+4°C) |

5' -GCGTTTTXXGCT-3' (T4X2)

54°C (+3.5°C)

55°C (+5°C)

5' -GCGXXXXXXGCT-3' (X6)

5

10

58°C (+1.8°C)

71°C (+4. 3°C)

a): 3'-CGCAAAAACGA-5'. b): 3'-r(CGCAAAAAACGA).

表から明らかなように、天然DNA鎖中に本発明のヌクレオシド類縁体(一般式(Ia))のユニット(X)が1個あるいは2個導入したオリゴマーでは、相補DNAオリゴマーとのハイブリド形成能が、Tm値で評価して天然鎖よりも2-7度(1修飾残基当たり2度程度)上昇し、TをすべてXで置換した(X6)においては11度も上昇した。一方、相補RNAに対するハイブリッド形成能を評価したところ、1個あるいは2個導入したオリゴマーでは天然鎖よりも4-10度(1修飾残基当たり4度から6度)のTm値の上昇が認められ、しかも(X6)においては相補RNAに対するハイブリッド形成能が更に強まり、Tm値が25度以上(1修飾残基当たり4度)も上昇が認められた。このように、天然鎖よりもTm値がかくも上昇する類縁体の例がなく、またDNAよりもRNAに対する親和性が高いことは、本発明のビシクロオリゴヌクレオシド類縁体を構成単位としたオリゴヌクレオチド類縁体がアンチセンス分子として極めて高い性能と医薬品素材としての有用性を有していることを意味していると言える。

「実験例2] ヌクレアーゼ酵素耐性の測定

15 15分間37℃に保ったオリゴヌクレオチドのバッファー溶液(10μM.400μ1) に蛇毒ホスホジエステラーゼのバッファー溶液(0.003U/m1,400μ1)を混合した。 混合溶液を37℃に保った石英セル(800μ1)に入れ、オリゴヌクレオチドの分解 による紫外部吸収(260nm)の増加をSHIMADZU UV-2100PCを用いて経時的に測定した。用いたバッファーの組成はTris-HC1(pH8.6)0.1M、NaCl 0.1M、MgCl214mMであり測定前に十分に脱気した。

半減期(t_{1/2})の測定

測定開始時(t=0)及び紫外部吸収が認められなくなった点のUV吸収の平均値を示す時間を半減期 ($t_{1/2}$)とした。

オリゴヌクレオチド配列 $t_{1/2}$ (秒)

5'-GTTTTTTTTC-3'(天然型) 260

5'-GTTTTTTTT-XX-C-3' (X 2) 850

また、紫外部吸収の経時変化を示すチャートを図1 (天然鎖)及び図2 (X2)に示した。天然鎖は酸素反応開始後、約30分で紫外部吸収値が一定となり、X2では約90分で一定となった。

[産業上の利用可能性]

5 この類縁体の使用により、生体内で酵素の加水分解を受けにくく、センス鎖との 結合能が高く、しかも合成が容易であるオリゴヌクレオチド類縁体アンチセンス 分子が提供される。

[配列表]

出願人の氏名:今西武

発明の名称:新規ビシクロヌクレオシド及びオリゴヌクレオチド類縁体

整理番号:

出願番号:

出願日:平成10年3月 日

優先権番号:特願平9-53409号

優先日:平成9年3月7日

配列の数:10

配列番号:1

配列の長さ:12

配列の型:ヌクレオチド

鎖の数:1本鎖

トポロジー:直鎖状

配列:

5' - GCGTTTTTTGCT - 3'

配列番号:2

配列の長さ:12

配列の型:ヌクレオチド、ヌクレオチド類縁体

鎖の数:1本鎖

トポロジー:直鎖状

配列:

5' - GCGXTTTTTGCT-3'

配列番号:3

配列の長さ:12

配列の型:ヌクレオチド、ヌクレオチド類縁体

鎖の数:1本鎖

トポロジー:直鎖状

配列:

5' - GCGTTXTTTGCT - 3'

配列番号: 4

配列の長さ:12

配列の型:ヌクレオチド、ヌクレオチド類縁体

鎖の数:1本鎖

トポロジー:直鎖状

配列:

5' - GCGTTTXTTGCT - 3'

配列番号:5

配列の長さ:12

配列の型:ヌクレオチド、ヌクレオチド類縁体

鎖の数:1本鎖

トポロジー:直鎖状

配列:

5' -GCGTTTTTXGCT-3'

配列番号:6

配列の長さ:12

配列の型:ヌクレオチド、ヌクレオチド類縁体

鎖の数:1本鎖

トポロジー:直鎖状

配列:

5' - GCGXXTTTTGCT - 3'

配列番号:7

配列の長さ:12

配列の型:ヌクレオチド、ヌクレオチド類縁体

鎖の数:1本鎖

トポロジー:直鎖状

配列:

5' -GCGTTXXTTGCT-3'

配列番号:8

配列の長さ:12

配列の型:ヌクレオチド、ヌクレオチド類縁体

鎖の数:1本鎖

トポロジー:直鎖状

配列:

5' - GCGTTTTXXGCT - 3'

配列番号:9

配列の長さ:12

配列の型:ヌクレオチド、ヌクレオチド類縁体

鎖の数:1本鎖

トポロジー:直鎖状

配列:

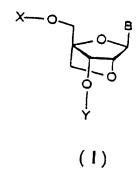
5' - GCGXXXXXXGCT - 3'

配列番号:10

配列の長さ:13

請求の範囲

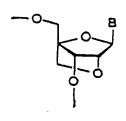
1. 一般式(I)



[式中、Bはピリミジンもしくはプリン核酸塩基又はそれらの類縁体であり、 X及びYは同一もしくは異なり、水素、アルキル基、アルケニル基、アルキニル 基、シクロアルキル基、アラルキル基、アリール基、アシル基、又はシリル基] で表わされるヌクレオシド類縁体もしくはそのアミダイト誘導体。

- 2. X、Yがともに水素である請求項1記載のヌクレオシド類縁体。
- 3. Xが 4,4'-ジメトキシトリチル (DMTr) で、Yが2ーシアノエトキシ (ジイソプロピルアミノ) ホスフィノ基 (アミダイト基) である請求項1記載の モノヌクレオシドアミダイト誘導体。
 - 4. 一般式 (Ia)

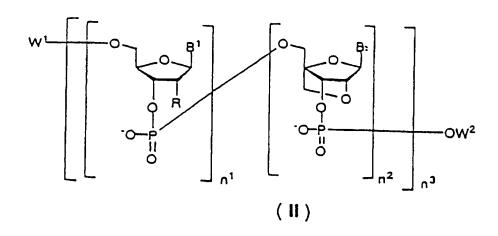
5

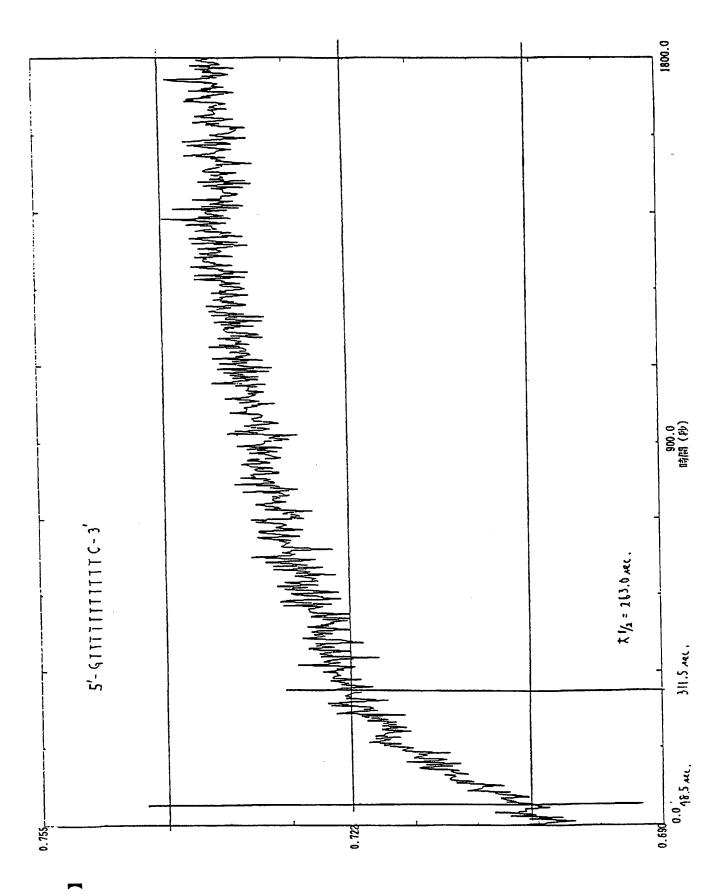


(la)

[式中、Bはピリミジンもしくはプリン核酸塩基又はそれらの類縁体である]で表される構造を1または2以上有するオリゴヌクレオチドまたはポリヌクレオチド類縁体。

5. 一般式 (II)

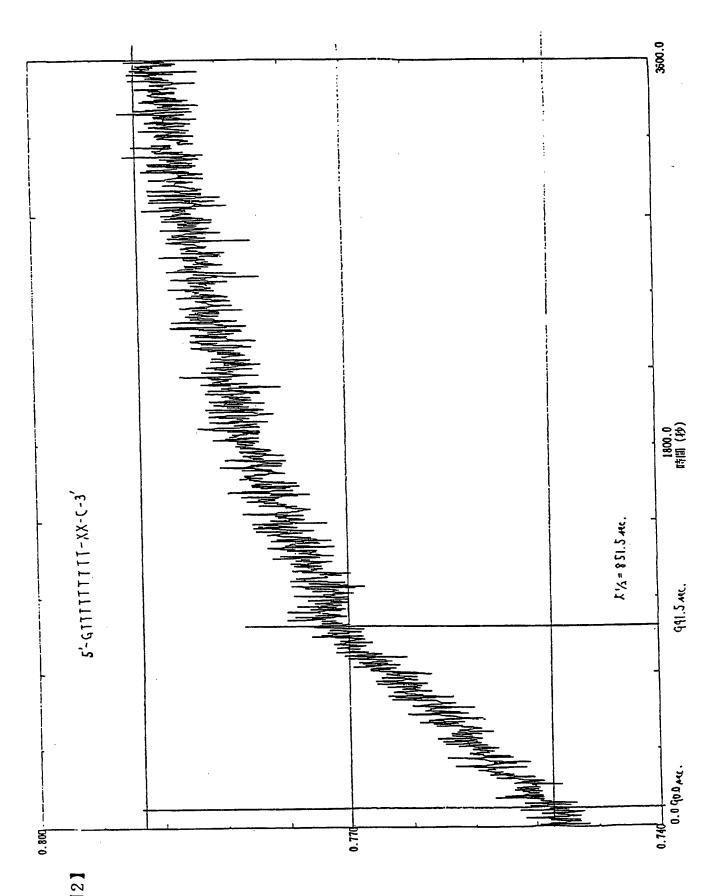




.X



PCT/JP98/00945



2/2

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No. PCT/JP98/00945

| A. CLAS | SIFICATION OF SUBJECT MATTER | | |
|--|--|---|--|
| Int | .Cl6 C07H19/06, C07H19/16, C07 | 7H21/00 // C12N15/00 | |
| | to International Patent Classification (IPC) or to both | national classification and IPC | |
| | DS SEARCHED | | |
| Int. | documentation searched (classification system followe . Cl ⁶ C07H19/06, C07H19/16, C07 | 7H21/00, C12N15/00 | _ |
| | tion searched other than minimum documentation to t | | |
| Electronic o | data base consulted during the international search (na (DIALOG), BIOSIS (DIALOG), CA | ame of data base and, where practicable, so (STN), REGISTRY (STN) | earch terms used) |
| C. DOCU | MENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT | | |
| Category* | Citation of document, with indication, where a | ppropriate, of the relevant passages | Relevant to claim No. |
| Р, Х | OBIKA S. et al., "Synthesis
Methyleneuridine an d-cytidi
Nucleosides Having a Fixed C ₃ ,-
Tetrahedron Letters, Vol. 38
(15 December 1997) p.8735-87 | ne. Novel Bicyclic
-en do Sugar Puckering",
B. No. 50 | 1-5 |
| A | ALTMANN K. H. et al., "6'-Carbon-Substituted Carbocyclic Analogs of 2'-Deoxyribonucleosides Synthesis and Effect on DNA/RNA Duplex Stability" Tetrahedron, Vol. 52, No. 39 (1996) p.12699-12722 | | |
| A | OBIKA S. et al., "Properties of Analogues Containing an Acyc Carbamate Linkage" Bioorganic Letters, Vol. 6, No. 12, (19 | lic Nucleoside and a
c & Medicinal Chemistry
96) p.1357-1360 | 1-5 |
| | r documents are listed in the continuation of Box C. | See patent family annex. | |
| "A" docume consider "E" earlier of "L" docume cited to special i docume means docume the prior | categories of cited documents: ent defining the general state of the art which is not red to be of particular relevance document but published on or after the international filing date ent which may throw doubts on priority claim(s) or which is establish the publication date of another citation or other reason (as specified) ent referring to an oral disclosure, use, exhibition or other ent published prior to the international filing date but later than rity date claimed | "T" later document published after the interm date and not in conflict with the applicate the principle or theory underlying the invocument of particular relevance; the classidered novel or cannot be considered when the document is taken alone document of particular relevance; the classidered to involve an inventive step we combined with one or more other such debeing obvious to a person skilled in the adocument member of the same patent far | ion but cited to understand vention simed invention cannot be it to involve an inventive step simed invention cannot be when the document is occuments, such combination or mily |
| Name and m | 25, 1998 (25. 05. 98) nailing address of the ISA/ | June 2, 1998 (02. 0 | 98) |
| Japa | nese Patent Office | - | |
| Facsimile No | o. | Telephone No. | |

国際調査報告

国際出願番号 PCT/JP98/00945

A. 発明の属する分野の分類(国際特許分類 (IPC))

Int. Cl⁶ C07H 19/06, C07H 19/16, C07H 21/00// C12N 15/00

B. 調査を行った分野

調査を行った最小限資料(国際特許分類(IPC))

Int. Cl⁶ C07H 19/06, C07H 19/16, C07H 21/00, C12N 15/00

最小限資料以外の資料で調査を行った分野に含まれるもの

国際調査で使用した電子データベース(データベースの名称、調査に使用した用語)

WPI (DIALOG), BIOSIS (DIALOG), CA (STN), REGISTRY (STN)

| <u>C.</u> 関連する | 関連すると認められる文献 | | | | | |
|-----------------|--|------------------|--|--|--|--|
| 引用文献の
カテゴリー* | 引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示 | 関連する
請求の範囲の番号 | | | | |
| P, X | OBIKA S. et al., "Synthesis of $2'-0$, $4'-C$ -Methyleneuridine and -cytidine. Novel Bicyclic Nucleosides Having a Fixed C_3 , -endo Sugar Puckering", Tetrahedron Letters, Vol. 38, No. 50 (15 December 1997) p. 8735-8738 | 1 — 5 | | | | |
| A | ALTMANN K.H. et al., "6'-Carbon-Substituted Carbocyclic Analogs of 2'-Deoxyribonucleosides Synthesis and Effect on DNA/R NA Duplex Stability" Tetrahedron, Vol. 52, No. 39(1996)p. 12699-12722 | 1 — 5 | | | | |
| A | OBIKA S. et al., "Properties of Novel Oligonucleotide Analog ues Containing anAcyclic Nucleoside and a Carbamate Linkage" | 1 – 5 | | | | |

x C欄の続きにも文献が列挙されている。

□ パテントファミリーに関する別紙を参照。

- * 引用文献のカテゴリー
- 「A」特に関連のある文献ではなく、一般的技術水準を示す もの
- 「E」先行文献ではあるが、国際出願日以後に公表されたもの
- 「L」優先権主張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行 日若しくは他の特別な理由を確立するために引用する 文献 (理由を付す)
- 「〇」口頭による開示、使用、展示等に言及する文献
- 「P」国際出願日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願

- の日の後に公表された文献
- 「T」国際出願日又は優先日後に公表された文献であって て出願と矛盾するものではなく、発明の原理又は理 論の理解のために引用するもの
- 「X」特に関連のある文献であって、当該文献のみで発明 の新規性又は進歩性がないと考えられるもの
- 「Y」特に関連のある文献であって、当該文献と他の1以 上の文献との、当業者にとって自明である組合せに よって進歩性がないと考えられるもの
- 「&」同一パテントファミリー文献

| 国際調査を完了した日 25.05.98 | 国際調査報告の発送日
02.06.98 |
|-----------------------------------|------------------------------------|
| 国際調査機関の名称及びあて先
日本国特許庁 (ISA/JP) | 特許庁審査官(権限のある職員) 4C 9282
中木 亜希 印 |
| 郵便番号100-8915
東京都千代田区霞が関三丁目4番3号 | 電話番号 03-3581-1101 内線 3454 |

国際調査報告

| 用文献の
テゴリー* | 関連すると認めら
引用文献名 | . 及び一部の | 箇所が関連す | るときは、そ | の関連 | する | 箇所の表 | 示 | 関連する
請求の範囲の |)
)番 ^り |
|---------------|----------------------------|------------------|-----------|----------|------|----|-----------------|-----|----------------|----------------------|
| | Bioorganic & 96) p.1357-1; | Medicinal
360 | Chemistry | Letters, | Vol. | 6, | No. 12, | (19 | | |
| | | | | | | | e
Ka | | | - |
| | € | | | | | • | e ^{m'} | | | |
| | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| , | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |



From the INTERNATIONAL BUREAU

| PCT | То: |
|--|--|
| NOTIFICATION OF ELECTION (PCT Rule 61.2) Date of mailing: | United States Patent and Trademark Office (Box PCT) Crystal Plaza 2 Washington, DC 20231 ETATS-UNIS D'AMERIQUE |
| 11 September 1998 (11.09.98) | in its capacity as elected Office |
| International application No.: PCT/JP98/00945 | Applicant's or agent's file reference: YCT-315 |
| International filing date:
09 March 1998 (09.03.98) | Priority date:
07 March 1997 (07.03.97) |
| Applicant: IMANISHI, Takeshi et al | |
| The designated Office is hereby notified of its election made in the demand filed with the International preliminary 15 April 1998 (in a notice effecting later election filed with the International preliminary 15 April 1998 (was in a notice effecting later election filed with the International preliminary was not made before the expiration of 19 months from the priority of Rule 32.2(b). | Examining Authority on: 15.04.98) ational Bureau on: |

The International Bureau of WIPO 34, chemin des Colombettes 1211 Geneva 20, Switzerland

Authorized officer:

J. Zahra

Facsimile No.: (41-22) 740.14.35

Telephone No.: (41-22) 338.83.38

特許協力条約

PCT

国際予備審査報告

(法第12条、法施行規則第56条) [PCT36条及びPCT規則70]

| 出願人又は代理人
の書類記号 YCT-315 | 今後の手続きについて | ては、国際予備審査報
I PEA/4 1 | | |
|---|---|---------------------------------|-----------------|--|
| | 国際出願日
(日.月.年) 09. | 03.98 | 優先日
(日.月.年) | 07.03.97 |
| 国際特許分類 (IPC) Int.Cl° C07H19/00 | 6, C07H19/1 | 6, C07H21/ | 00 // C1 | 2N15/00 |
| 出願人 (氏名又は名称)
今西 武 | | | | |
| 1. 国際予備審査機関が作成したこの国際 | | | | 見定に従い送付する。 |
| 2. この国際予備審査報告は、この表紙: この国際予備審査報告には、附別 査機関に対してした訂正を含むは (PCT規則70.16及びPCT実この附属費類は、全部で | 属書類、つまり補正 る
明細書、請求の範囲』
逐施細則第607号参 | されて、この報告のā
及び/又は図面も添ん
:照) | 基礎とされた及び | ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ |
| 3. この国際予備審査報告は、次の内容 | を含む。 | | | |
| I x 国際予備審査報告の基礎 | | | | |
| Ⅱ ∐ 優先権 | - etal ITI - the left has a second | | # 0 T / + 4 | |
| Ⅲ ■ 新規性、進歩性又は産業上 | 」の利用可能性につい | ての国際市偏番食報 | 合の不作成 | |
| IV | る新規性、進歩性又は | は産業上の利用可能性 | 生についての見角 | Y、それを裏付けるため |
| VII 国際出願の不備 | | | | |
| VⅢ □ 国際出願に対する意見 | | | | |
| | | | | |
| Carlo 7 (Marko de a Sal Justo de 17 mil) | | 司吹又供家木却ルナ./ | たけしたロ | |
| 国際予備審査の請求書を受理した日 15.04.98 | | 国際予備審査報告を(| 08.02. | 9 9 |

特許庁審査官 (権限のある職員)

電話番号 03-3581-1101 内線

中木 亜希

4C 9282

3 4 5 4

日本国特許庁 (IPEA/JP)

郵便番号100-8915 東京都千代田区霞が関三丁目4番3号

名称及びあて先

国際予備審査報告

| I. | Ξ | 国際予備審査報 | 告の基礎 | | | | |
|----|------------------|--|---------------------------|--|--|--|------------------------------------|
| 1. | Fi | の国際予備審
答するために
PCT規則70.1 | 提出され | 下記の出願書類に
た差し替え用紙は | 基づいて作成され、この報告書に | れた。(法第6条(PCT
おいて「出願時」とし、本 | 14条) の規定に基づく命令に
報告書には添付しない。 |
| | х | 出願時の国際 | 以服書類 | | | | |
| | | 明細書
明細書
明細書 | 第
第
第 | | ページ、
ページ、
ページ、 | 出願時に提出されたもの
国際予備審査の請求書と | |
| | | 請求の範囲
請求の範囲
請求の範囲
請求の範囲 | 第
第
第
第 | | 項、
項、
 | 出願時に提出されたもの
PCT19条の規定に基
国際予備審査の請求書と | づき補正されたもの |
| | | 図面
図面
図面 | 第
第
第 | | ページ/図、
ページ/図、
ページ/図、 | 国際予備審査の請求書と | |
| | | 明細書の配列
明細書の配列
明細書の配列 | 表の部分 | 第 | ページ、
ページ、
ページ、 | 出願時に提出されたもの
国際予備審査の請求書と | |
| 2. | | | | 、下記に示す場合語である | | の国際出願の言語である。
る。 | |
| | -
[
[| | のために扱
則48.3(b) | 是出されたPCT;
にいう国際公開の | 規則23.1(b)にい
)言語 | | 語 |
| 3. | 3 | この国際出願に | は、ヌクレ | オチド又はアミノ | '酸配列を含んで | おり、次の配列表に基づき | 国際予備審査報告を行った。 |
| | [
[
[
] | こ 出 田 服 領 後 に に 出 開 願 後 に に 出 期 願 を しょ き 書 画 に よ | 出願と共に、この国際、この国際では、このになった。 | 祭予備審査(また
書面による配列表 | キシブルディスク
は調査)機関に抗
は調査)機関に抗
が出願時における | 品出された書面による配列:
出されたフレキシブルデ
も国際出願の開示の範囲を | |
| 4. | | #正により、↑
明細書
請求の範囲
図面 | 第 | が削除された。 | | ·
ジ/図 | |
| 5. | | れるので、そ | との補正が | は、補充欄に示し
されながったも <i>0</i>
際に考慮しなけれ | りとして作成した | 。(PCT規則70.2(c) こ | 随囲を越えてされたものと認めら
この補正を含む差し替え用紙は上 |
| | | | | | | n | • |





出願人又は代理人

の書類記号 YCT-315



今後の手続きについては、国際調査報告の送付通知様式(PCT/ISA/220)

PCT

国際調査報告

(法8条、法施行規則第40、41条) [PCT18条、PCT規則43、44]

| の書類記号 YCT-315 | | 及 | び下記5を | 参照すること。 |
|----------------------------------|-------------------------------------|---------------------------------------|------------|---|
| 国際出願番号 PCT/JP98/00945 | 国際出願日(日.月.年) | 09.03. | ~ ~ | 優先日
(日.月.年) 07.03.97 |
| 出願人 (氏名又は名称)
今西 武 | | | | • |
| 国際調査機関が作成したこの国際 この写しは国際事務局にも送付さ | 調査報告を法施行
れる。 | ————————————————————————————————————— | CT18条 |)の規定に従い出願人に送付する。 |
| この国際調査報告は、全部で | 3ページであ <i>。</i> | る。 | | |
| □ この調査報告に引用された先行 | 庁技術文献の写し | も添付されている | ప 。 | |
| 1. 請求の範囲の一部の調査 | 査ができない (第 | I 欄参照)。 | | |
| 2. 発明の単一性が欠如して | ている(第Ⅱ欄参照 | 照)。 | | , |
| 3. □ この国際出願は、ヌク l
査を行った。 | /オチド及び/又) | まアミノ酸配列! | リストを含ん | んでおり、次の配列リストに基づき国際調 |
| □ この国際出願と共に批 | 是出されたもの | | | |
| □ 出願人がこの国際出願 | 頁とは別に提出した | こもの | | |
| □ しかし、出願時の | 国際出願の開示の |)範囲を越える事 | 4項を含また | ない旨を記載した書面が添付されていない |
| □ この国際調査機関が書 | 持換えたもの | | | |
| 4. 発明の名称は 🔻 🗓 🗵 | は願人が提出したも | つのを承認する。 | | |
| □ ₺ | に示すように国際 | 器調査機関が作成 | えした。 | |
| · | | | | |
| 5. 要約は x k | 1殴!な相口しそす | m + 51.50 L 7 | | |
| | I願人が提出したも
I III 関に云されてい | | | |
| <u>.</u> | 順に小されてく
 際調査機関が作成
 国際調査機関に意 | こした。出願人は | 、この国際 | 7条(PCT規則38.2(b))の規定により
誘調査報告の発送の日から1カ月以内にこ
ら。 |
| 6. 要約書とともに公表される図は
第 図とする。 □ 出 | | らりである 。 | | 区 なし |
| | 願人は図を示さな | • | | ري ها |
| _ 本 | 図は発明の特徴を | 一層よく表して | いる。 | |
| | | | | |





国際出願番号 PCT/JP98/00945

| _ | | 4 | | |
|-------|------------------------------------|---------|--------|---|
| Α. | 発明の属する分野の分類 | (国際性乳心病 | (TDC) | ١ |
| 7 L . | 70 71 V 7 MAY 7 10 71 FI V 7 71 KR | | \cup | , |

Int.Cl° C07H 19/06, C07H 19/16, C07H 21/00// C12N 15/00

B. 調査を行った分野

調査を行った最小限資料(国際特許分類(IPC))

Int.Cl⁶ C07H 19/06, C07H 19/16, C07H 21/00, C12N 15/00

最小限資料以外の資料で調査を行った分野に含まれるもの

国際調査で使用した電子データベース (データベースの名称、調査に使用した用語)

WPI (DIALOG), BIOSIS (DIALOG), CA (STN), REGISTRY (STN)

| | ると認められる文献 | |
|-----------------|---|------------------|
| 引用文献の
カテゴリー* | 引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示 | 関連する
請求の範囲の番号 |
| P, X | OBIKA S. et al., "Synthesis of 2'-0,4'-C-Methyleneuridine and -cytidine. Novel Bicyclic Nucleosides Having a Fixed C ₃ ,-en do Sugar Puckering", Tetrahedron Letters, Vol. 38, No. 50 (15 D ecember 1997) p. 8735-8738 | 1 — 5 |
| A | ALTMANN K. H. et al., "6'-Carbon-Substituted Carbocyclic Analogs of 2'-Deoxyribonucleosides Synthesis and Effect on DNA/R NA Duplex Stability" Tetrahedron, Vol. 52, No. 39(1996) p. 12699-12722 | 1 — 5 |
| А | OBIKA S. et al., "Properties of Novel Oligonucleotide Analog ues Containing anAcyclic Nucleoside and a Carbamate Linkage" | 1 – 5 |

x C欄の続きにも文献が列挙されている。

パテントファミリーに関する別紙を参照。

- * 引用文献のカテゴリー
- 「A」特に関連のある文献ではなく、一般的技術水準を示す もの
- 「E」先行文献ではあるが、国際出願日以後に公表されたもの。
- 「L」優先権主張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行 日若しくは他の特別な理由を確立するために引用する 文献(理由を付す)
- 「〇」口頭による開示、使用、展示等に言及する文献
- 「P」国際出願日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願

- の日の後に公表された文献
- 「T」国際出願日又は優先日後に公表された文献であって て出願と矛盾するものではなく、発明の原理又は理 論の理解のために引用するもの
- 「X」特に関連のある文献であって、当該文献のみで発明 の新規性又は進歩性がないと考えられるもの
- 「Y」特に関連のある文献であって、当該文献と他の1以 上の文献との、当業者にとって自明である組合せに よって進歩性がないと考えられるもの
- 「&」同一パテントファミリー文献

国際調査を完了した日 25.05.98 国際調査報告の発送日 02.06.98 国際調査機関の名称及びあて先 特許庁審査官 (権限のある職員) 4C 9282 中木 亜希 単便番号100-8915 東京都千代田区霞が関三丁目4番3号 電話番号 03-3581-1101 内線 3454



国際調査報告

| こ (続き) . | たき). 関連すると認められる文献 | | | | | |
|---------------|---|-------------------------|---------|--|--|--|
| 用文献の
テゴリー* | 引用文献名 及び一郎の笛訴が関連子でした。 | ナースの即声ナス質エのキニ | 関連する | | | |
| ** | 引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは
Bioorganic & Medicinal Chemistry Lette | xc Vol 6 No 10 /10 | 請求の範囲の番 | | | |
| | 96) p. 1357-1360 | rs, vol. 6, No. 12, (19 | | | | |
| | | -4 | | | | |
| | | Qp 501.867 | | | | |
| | | $Q_{1}P501.$ | | | | |
| | | | , | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| [| | | • | | | |
| 1 | | | | | | |
| | | | | | | |
| . | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | : | | | | |
| | | | | | | |
| 1 | | Į. | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | , | | | | | |
| | , | | | | | |
| | • | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | • | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | , | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |



| 新規性、進歩性又は産業上の利用可能
文献及び説明 | 性についての伝第12条(PC
 | 1 3 5 宋 (Z)) に正める兄解、
 | て40を殺りり |
|--|----------------------------|------------------------------------|------------|
| . 見解 | | · | |
| 新規性(N) | 請求の範囲

請求の範囲 | 1 — 5 | |
| 進歩性(IS) | 請求の範囲
請求の範囲 | 1 – 5 | |
| 産業上の利用可能性(IA) | 請求の範囲
請求の範囲
 | 1 – 5 | |
| . 文献及び説明(PCT規則70.7) | | | |
| 請求の範囲1-5に記載され
明に関連があると認められる文
ものでもない。 | れた発明は、国際調査報
て献に記載されておらす | B告に表示された文献 <i>I</i>
「、かつ、当業者にと、 | 及び当該発って自明な |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |

特許協力条約

今後の手続きについては、国際予備審査報告の送付通知(様式PCT/

PCT

国際予備審查報告

(法第12条、法施行規則第56条) [PCT36条及びPCT規則70]

出願人又は代理人

| מיטבת | 19 FED (000 | |
|-------|-------------|---|
| | 1 | - |

| の書類記号 YCT-315 | | IPEA/41 | (6)を参照すること。 |
|---|-------------------------|--------------------|---------------------------|
| 国際出願番号 · PCT/JP98/00945 | 国際出願日
(日.月.年) 0 9 | 0. 03. 98 | 優先日
(日.月.年) 07.03.97 |
| 国際特許分類(IPC)
Int.Cl° C07H19/C |)6, C07H19/ | '16, C07H21/ | '00 // C12N15/00 |
| 出願人 (氏名又は名称) 今西 武 | | | |
| 1. 国際予備審査機関が作成したこの国 | 国際予備審査報告を法 | と施行規則第57条(P(| CT36条)の規定に従い送付する。 |
| 2. この国際予備審査報告は、この表紙 | ほを含めて全部で _ | 3 ~~ ? | どからなる。 |
| □ この国際予備審査報告には、所
査機関に対してした訂正を含む
(PCT規則70.16及びPCT
この附属書類は、全部で | 』明細書、請求の範囲
実施細則第607号 | 目及び/又は図面も添ん
参照) | を礎とされた及び/又はこの国際予備審けされている。 |
| 3. この国際予備審査報告は、次の内容 |
字を含む。 | | |
| I x 国際予備審査報告の基礎 | | | |
| Ⅱ □ 優先権 | | | |
| □ | 上の利用可能性につ | いての国際予備審査報 | 告の不作成 |
| Ⅳ □ 発明の単一性の欠如 | | | |
| V x PCT35条(2)に規定で | ようが現性、進歩性が | ては産業上の利用可能性 | 生についての見解、それを裏付けるため |
| ・ の文献及び説明
Ⅵ | | | |
| VII 国際出願の不備 | | | |
| VⅢ □ 国際出願に対する意見 | | | |
| | | | |
| 国際予備審査の請求書を受理した日 15.04.98 | | 国際予備審査報告を何 | 作成した日
08.02.99 |

様式PCT/IPEA/409 (表紙) (1998年7月)

日本国特許庁 (IPEA/JP)

郵便番号100-8915 東京都千代田区霞が関三丁目4番3号

名称及びあて先

9282

3454

/ 5

特許庁審査官 (権限のある職員)

電話番号 03-3581-1101 内線

中木 亜希

国際予備審査報告

| I. 国際予 | 帯審査報告の基礎 | | | | |
|--------------------------|---|--|--|--|--|
| 応答する | 祭予備審査報告は
5ために提出され
見則70.16,70.17) | 下記の出願書類に基
た差し替え用紙は、 | づいて作成され
この報告書にお | ιた。(法第6条(P(
βiいて「出願時」とし、 | CT14条)の規定に基づく命令に
本報告書には添付しない。 |
| 区 出願明 | 、
寺の国際出願書類 | | | | |
| 明細調明細調明細調明細調明細調明細調明細調明細調 | 第 | | ページ、
ページ、
ページ、 | 出願時に提出された。
国際予備審査の請求書 | らの
小性を表しては、 |
| 請求(請求) | の範囲 第
の範囲 第
の範囲 第
の範囲 第 | | 項、
項、
項、
項、 | | もの
こ基づき補正されたもの
ひと共に提出されたもの
付の書簡と共に提出されたもの |
| 面図
図面
図面 | 第
第
第 | | ページ/図、
ページ/図、
ページ/図、 | 出願時に提出された。
国際予備審査の請求 | もの
書と共に提出されたもの
付の書簡と共に提出されたもの |
| 明細 | 書の配列表の部分
書の配列表の部分
書の配列表の部分 | 第 | ページ、
ページ、
ページ、
- | 出願時に提出された。
国際予備審査の請求 | もの
書と共に提出されたもの
付の書簡と共に提出されたもの |
| 2. 上記の | 出願書類の言語は | 、下記に示す場合を | 除くほか、この |)国際出願の言語である | 5. |
| 上記の | 碁類は、下記の言 | 語である | 語である | 5. | `` |
| P | C T規則48.3(b) | 是出されたPCT規則
にいう国際公開の言
かに提出されたPCT | 語 | 5 翻訳文の言語
は55.3にいう翻訳文の | 言語 |
| 3. この国 | 祭出願は、ヌクレ | オチド又はアミノ酸 | 配列を含んでお | おり、次の配列表に基っ | づき国際予備審査報告を行った。 |
| | の国際出願と共同
願後に、この国際
願後に、この国際
願後に提出した。
の提出があった
での提出があった。
での提出があった。 | 祭予備審査(または誤
専面による配列表が出
こ記載した配列とフレ | ンブルディスク
周査)機関に提
周査)機関に提
出願時における | 出された書面による配
出されたフレキシブル
国際出顧の開示の範囲 | 別表
ディスクによる配列表
 を超える事項を含まない旨の陳述
 録した配列が同一である旨の陳述 |
| 明細 | より、下記の書類
書 第 <u></u>
の範囲 第 <u></u>
図面の第 | | _ページ
_項
ペー: | ジ /図 | |
| れる | ので、その補正が | は、補充欄に示した
されなかったものと
際に考慮しなければ | して作成した。 | (PCT規則70.2(c) | の範囲を越えてされたものと認めら
この補正を含む差し替え用紙は上 |
| | | · | | | |



| 見解 | | | |
|---------------------------------|------------------------------|--------------------------|----------------------------------|
| 、
新規性(N) | 請求の範囲 | 1 - 5 | |
| | 請求の範囲 | | # |
| 進歩性(IS) | | 1 - 5 | |
| | 請求の範囲 | | |
| 産業上の利用可能性 (IA) | 請求の範囲
請求の範囲 | 1 - 5 | |
| → 株 Ђ / Š 前 明 (D C T 坦 Ⅲ 70 7) | | | |
| 文献及び説明 (PCT規則70.7) | - と 500円 b に 157 1897 千円 木 土 | ロサルキニさんを立ち | 、
4 TZ ァ k YZ 3か g |
| 請求の範囲1-5に記載され
明に関連があると認められる3 | れた発明は、国際調査報
文献に記載されておらず | 最告に表示された文献
げ、かつ、当業者にと | た及び当該領 |
| ものでもない。 | | | |
| | | | · *, |
| | | | |
| | | | |
| • | | ~ | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | • |
| | | | |
| | | | |
| | | | |

殿

発信人 日本国特許庁 (国際予備審査機関)

出願人代理人

社本 一夫

あて名

T 100-0004

東京都千代田区大手町二丁目2番1号 新大手町ビル206区 湯浅法律特許事務所

РСТ

国際予備審査報告の送付の通知書

(法施行規則第57条) [PCT規則71.1]

発送日 (日.月.年)

160299

出願人又は代理人 の書類記号

YCT - 315

重要な通知

国際出願番号 PCT/JP98/00945

国際出願日 (日.月.年)

09.03.98

優先日 (日.月.年)

07.03.97

出願人(氏名又は名称)

今西 武

- 1. 国際予備審査機関は、この国際出願に関して国際予備審査報告及び付属書類が作成されている場合には、それらをこの 送付書とともに送付することを、出願人に通知する。
- 2. 国際予備審査報告及び付属書類が作成されている場合には、すべての選択官庁に通知するために、それらの写しを国際 事務局に送付する。
- 3. 選択官庁から要求があったときは、国際事務局は国際予備審査報告(付属書類を除く)の英語の翻訳文を作成し、それ をその選択官庁に送付する。

4.注 意

出願人は、各選択官庁に対し優先日から30月以内に(官庁によってはもっと遅く)所定の手続(翻訳文の提出及び国内 手数料の支払い)をしなければならない(PCT39条(1))(様式PCT/IB/301とともに国際事務局から送付 された注を参照)。

国際出願の翻訳文が選択官庁に提出された場合には、その翻訳文は、国際予備審査報告の付属書類の翻訳文を含まなけれ ばならない。

この翻訳文を作成し、関係する選択官庁に直接送付するのは出願人の責任である。

選択官庁が適用する期間及び要件の詳細については、PCT出願人の手引き第Ⅱ巻を参照すること。

名称及びあて名

日本国特許庁 (IPEA/JP) 郵便番号100-8915 東京都千代田区霞が関三丁目4番3号 権限のある職員

特許庁長官

4 C 9282

電話番号 03-3581-1101 内線 3454

様式PCT/IPEA/416 (1992年7月)

(添付用紙の注意書きを参照)